

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業  
MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究

首都圏の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

研究代表者：市川誠一(名古屋市立大学看護学部 教授)

研究協力者：荒木順子、佐久間久弘、木南拓也(公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 akta)、岩橋恒太(名古屋市立大学看護学部/特定非営利活動法人 akta)、大島岳、柴田恵、阿部甚兵(特定非営利活動法人 akta)、生島嗣、桜井啓介、加藤悠二(特定非営利活動法人ふれいす東京)、高野操(公益財団法人エイズ予防財団/独立行政法人国立国際医療研究センター・エイズ治療研究開発センター)、金子典代、塩野徳史(名古屋市立大学看護学部)

研究要旨

首都圏地域では 2006 年から 2010 年度にかけて、厚生労働省エイズ対策研究事業「エイズ予防のための戦略研究」課題 1(以下、戦略研究)において、首都圏に居住する男性同性愛者等(以下、MSM)を対象に HIV の支援・相談体制の整備、HIV の感染予防啓発、HIV 抗体検査普及活動等が、様々なネットワークを構築・活用して取り組まれてきた。その介入の結果、首都圏の MSM における HIV 抗体検査の受検者割合の増加、初回診断時にエイズ発症しているケース(以下、初回報告エイズ患者数)の減少という成果をあげている。2011 年 3 月をもって戦略研究は終了したが、その後も MSM を対象とした効果的なエイズ対策を本地域において継続、展開していくことが必要である。

2012 年 1 月、厚生労働省は感染症法に基づく「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(以下、エイズ予防指針)」を改正した。今回の改正では、特に個別施策層への対策の更なる重点化、および行政と NGO 等の連携した取り組みの重要性等が明記された。加えて、個別施策層について、新たに「薬物乱用者」が追加・明記されている。こうしたことを踏まえ、本研究は首都圏の MSM を対象とし、HIV 感染予防の啓発普及および HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発普及を通じて、初回報告エイズ患者数が減少することと HIV の新規感染の拡大防止することを目的とした。啓発普及は、コミュニティセンター akta を基点としたコミュニティベースの活動、および特定非営利活動法人ふれいす東京(以下、ふれいす東京)と特定非営利活動法人 akta(以下、akta)の協働体制である「MSM 首都圏グループ」の検査普及活動によって行われた。さらに、コミュニティにおける啓発活動を促進する、キーパーソン、商業施設やメディア等とのネットワーク、MSM が安心して受検できる HIV 抗体検査を促進するための行政・保健所、医療機関とのネットワーク、そして HIV に関連する多様なニーズに応じた支援を行っている NGO/NPO 等とのネットワークの強化や新たな構築を図った。

研究 3 年目となる本年度は、以下のことを中心に実施した。

1. コミュニティセンター akta を基点とした啓発活動

2003 年 9 月にオープンしたコミュニティセンター akta では、2013 年 12 月末までの総来場者はのべ 94,931 人となった。また、2013 年度来場者数(2013 年 12 月 31 日まで)は 5,787 人、初来場者は 1,269 人(来場者中 21.9%)であった。継続的な啓発資材として、毎月の定期発行制作物「コミュニティペーパー akta」と TAKE FREE CONDOM を作成した。なお、「コミュニティペーパー akta」は今年度 6 ヶ月間の休刊期間を経て、新たな形式でのスタートを 2014 年 1 月より行った。これらのツールを、コミュニティセンター akta を基点

とし、DELIVERY BOYS、ADULT DELIVERY や資材発送により普及を行った。

行政、検査施設との連携として、新宿区保健所、港区みなと保健所、東京都福祉保健局、多摩川病院等の検査情報を広報した。改正エイズ予防指針を踏まえ、東京都福祉保健局と連携し、薬物使用と HIV に関する資材やトークショーの企画、実施を行った。

ゲイコミュニティのキーパーソンとの連携を構築、強化しながら、MSM の HIV の感染予防の普及啓発に関して新規性、およびより訴求性のあるメッセージを発信するキャンペーンとプログラムを新たに企画、実施した。昨年度に続き、2013 年 7 月から 10 月にかけて展開した「akta safer sex campaign 2013」では、首都圏地域のバーなどゲイ向け商業施設(200 店舗)、ハッテン場(15 店舗)との協力関係を構築、強化し、セーファーセックスに関するメッセージを伝えるカード、オリジナルコンドーム、ポスター等を制作、配布した。

多様性をとまなう視点から、「私たちはすでに HIV とともに生きている」というリアリティを伝える Living Together 計画との連携のもと、2004 年 9 月より実施されてきた「Living Together Lounge」が 2012 年 4 月に終了した。そのため、継続している「Living Together のど自慢」に加え、新たな啓発イベントのあり方の検討と企画を行い、特に若年層を対象として意識した、2012 年 8 月より「akta tag tour」を開始し、今年度も継続して実施した。

## 2. 首都圏地域に居住する MSM を対象とした HIV 抗体検査受検行動を促進するための介入研究

戦略研究以後のぶれいす東京と akta の協働体制「MSM 首都圏グループ」を通じて、地域の行政・保健所等、医療機関と連携し、MSM の HIV 抗体検査受検行動を促進するプロジェクト「ヤロープロジェクト」を展開した。ここでは、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県を介入地域とし、1) エイズ対策事業に関する意見交換会の開催、2) 保健所等の HIV 抗体検査担当者への研修会の開催、3) 支援・相談体制の整備としてのウェブサイト「HIV マップ」の運営と更新、4) 首都圏の MSM を対象とした HIV 抗体検査普及のための冊子「ヤローページ」の開発と普及、5) MSM 集団における啓発介入の評価調査について実施した。

検査促進のための啓発普及は、新宿を基点に、上野・浅草、新橋、渋谷、横浜等で、ゲイ向け商業施設や各種メディアを通じて実施した。

## 3. 首都圏の MSM における啓発介入評価調査

### 1) HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

東京都 18 箇所、神奈川県 8 箇所、千葉県 12 箇所の保健所等の協力を得て HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査を実施し、MSM 受検者の動向把握および啓発介入に用いた資材認知を評価した。2013 年 1 月から 2013 年 9 月末までの回答者を対象に分析した。全受検者中の MSM 割合は、東京都内保健所(南新宿検査・相談室を除く)15.7%、南新宿検査・相談室 27.1%、神奈川県内保健所等 12.5%、千葉県内保健所 6.2%であった。MSM 受検者で、CBO 活動や資材を認知する者は再受検者の割合、性感染症の既往歴を持つ割合が高く、HIV や性感染症について困った時や不安な時に身近な友人に相談できると思っている割合や相談場所の認知割合も高かった。

### 2) コミュニティネットワークを用いた MSM を対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査-GCQ アンケート-

首都圏在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM 491 人を、24 歳以下、25-29 歳、30-34 歳、35-39 歳、40 歳以上に分類し、HIV を含む性感染症に関連した状況や行動を年齢層別に把握した。

HIV 抗体検査については、受検意図を有する割合が 86.2%、生涯の受検経験率が 77.4%で MSM は比較的受検していることが分かった。しかし、24 歳以下では意図を有する者が 77.4%に対し、生涯受検経験率は 58.5%と低く、若年層での HIV 感染者増が著しいことから、この層への介入が必要と思われる。

性行動については、コンドーム常用率は全体で 44.2%、年齢による差異はなく、また特定と不特定別に相手が異なっても常用率に差異はなかった。一方、akta が発信する資材等を「読んだ」、「受け取った」の回答は 1/3 から 1/2 を占め、活動の継続による訴求が示されている。

## A. 研究目的

厚生労働省エイズ動向委員会の平成 24 年動向年報(2013 年 5 月 22 日発表)によれば、HIV 感染者の新規報告数は 1,002 件、エイズ発症者報告数は 447 件であり、そのうち日本国籍の同性間性的接触による感染は 915 件(63.1%)と大きな割合を占めている。さらに地域別でみると、東京都における感染報告数は HIV 感染者の新規報告数は 369 件、エイズ発症者報告数は 92 件であり、それぞれ全国の 36.8%、20.6%を占めている(全国における合計報告数割合 31.8%)。

2006 年度から 2010 年度にかけて、エイズ予防のための戦略研究(以下、戦略研究)では、首都圏での取り組みを行う支援団体・啓発普及団体・当事者団体といった複数の NGO/NPO で MSM 首都圏グループを構成し、首都圏に居住する MSM を対象とする HIV の予防啓発・HIV 抗体検査普及活動を行ってきた。その介入の結果、首都圏の MSM における HIV 抗体検査の受検者割合の増加、エイズ発症で感染がわかるケースの減少という成果をあげている。戦略研究は 2011 年 3 月をもって終了したが、その後も首都圏の MSM を対象とした効果的な HIV 感染対策を継続、展開していくことが望まれる。

本研究は首都圏の男性同性愛者等を対象に、HIV 感染予防の啓発普及、HIV 抗体検査の啓発普及を促進し、エイズ発症者の減少と HIV 感染拡大防止を目的とする。

介入は、コミュニティセンターakta を基点としたコミュニティベースで行われるセクシュアルヘルス増進のための啓発活動、特定非営利活動法人ぷれいす東京(以下、ぷれいす東京)と特定非営利活動法人 akta(以下、akta)の協働体制である MSM 首都圏グループによる検査普及によって行われた。これらの活動は、コミュニティにおける啓発活動を促進するキーパーソン、商業施設やメ

ディア等とのネットワーク、MSM が安心して受検できる HIV 抗体検査を促進するための行政・保健所、医療機関とのネットワーク、そして HIV に関連する多様なニーズに応じた支援を行っている NGO/NPO 等とのネットワークの強化や継続を図りつつ、実施した。

## B. 研究方法

### 1. 対象地域・対象者

首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)に居住する MSM を対象とする。なお、本研究班の推計によれば、首都圏に居住する MSM 人口は 676,246 名(成人男性における推計 MSM 率 4.6%)である。(図 2)

### 2. 研究方法および介入方法

首都圏の MSM を対象とし、HIV 感染予防の啓発普及および HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発普及を通じて、エイズ発症者が減少することと HIV 感染の拡大防止するため、戦略研究で構築した MSM への啓発、HIV 検査普及促進と支援・相談、研究成果を把握する調査のそれぞれが連動する研究体制を継続した(図 3)。

#### 1) 資材・プログラムの開発と普及

首都圏の NGO/NPO が協働し、HIV 感染をより身近に感じる契機をつくり、感染リスクの認識を高め、MSM に訴求性をもつ資材の開発とその配布の実施を行った。具体的には、HIV/AIDS のリアリティの可視化/予防行動の促進/HIV 抗体検査受検行動促進を目的に、啓発資材を作成し、ゲイ向け商業施設、ゲイメディア、ゲイサークル等のネットワークを通じ、情報の浸透と普及拡大を図った。

#### 2) MSM 対応検査体制の整備と拡大

NGO/NPO が行う広報と連動する保健所や公的 HIV 検査機関、STD 関連クリニック等を確保し、

MSM の HIV 抗体検査受検の機会拡大を図ることを目的とした。受検行動の阻害因子と考えられる、検査機関での MSM への偏見や不適切な対応について、都県といった自治体と連携して検査担当者対象の研修会を実施し、このことを通じて MSM が安心して受検できる検査体制構築に貢献すると考えられる。

加えて、MSM の HIV 抗体検査受検機会の拡大の検討を主なテーマとした、地域におけるエイズ対策事業に関する意見交換会を都県、各保健所、公的 HIV 検査機関等と実施した。

### 3) 支援・相談体制の整備

HIV 検査受検前の感染不安、および感染告知後の不安等のニーズに対応する MSM 対象の相談・支援体制を整備する。首都圏では戦略研究において、NGO/NPO 等による電話相談等のリソース情報について、関係機関・団体との連携のもと、ウェブサイト「HIV マップ」で案内をしてきた。戦略研究終了後、「HIV マップ」は事業化され、現在は akta が受託し、継続している。本研究は、保健所や公的 HIV 検査機関等と連携した、MSM を対象とする HIV 抗体検査受検促進のための検査普及を、「HIV マップ」と連動して継続的に取り組みを行った。

### 4) 評価調査体制の整備

首都圏の MSM を対象とした啓発普及が及ぼしたインパクトを評価するため、保健所、公的 HIV 検査機関等における HIV 検査受検件数、HIV 陽性件数を調査し、それらの動向を把握した。また、同検査機関の HIV 検査受検者への質問紙調査により MSM の受検者数(割合)、および啓発普及プログラムの暴露状況を把握した。

介入対象地域の MSM を対象に、コミュニティを基盤とする横断調査を実施した。横断調査の後、継続して行う質問紙調査に参加する MSM の調査協力者をリクルートし、啓発介入プログラムの認知率、生涯受検率および過去 1 年間の受検率等を把握するパネル調査を企画・実施した。

### 3. 評価項目

#### 1) HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

首都圏において MSM を対象に、保健所、公的機関などにおける HIV 抗体検査を促進する広報介入を行う。そして、本研究の検査広報および受け入れに協力した施設(以下、定点施設)とそれ以外の施設を分け、調査を行う。調査では、HIV 検査件数や陽性割合の動向、受検者アンケートによる受検者中の MSM 割合や啓発資材暴露率の動向、さらにエイズ発生動向調査におけるエイズ発症者数の抑制効果などを介入前後で比較する。

評価項目は、以下の通りである。

- (1) 定点保健所および公的 HIV 抗体検査機関、定点クリニックで行われた MSM の HIV 抗体検査件数
- (2) MSM 受検者のうち本研究の啓発・広報戦略に暴露された割合
- (3) MSM 集団における HIV 抗体検査の生涯および過去 1 年間の受検率
- (4) 男性受検者の陽性割合
- (5) HIV 診断時における MSM のエイズ発症者数

#### 2) インターネット横断調査および追跡パネル調査-GCQ2013-

- (1) MSM 集団における本研究の啓発・広報戦略に暴露された割合
- (2) MSM 集団における HIV 抗体検査の生涯および過去 1 年間の受検率
- (3) 啓発暴露と受検行動の関連分析による効果評価など

### C. 研究結果

#### 1. コミュニティセンターakta を基点とした啓発活動

##### 1) コミュニティセンター akta

##### (1) 役割と機能

コミュニティセンターakta は、MSM を対象とした HIV 感染対策をコミュニティベースで取り組む

啓発普及拠点として、2003年9月に新宿二丁目に設立された。HIV/エイズに関連した啓発活動がゲイコミュニティに根ざしたものとなるように、新宿や他地域のバー、クラブ、ハッテン場等のゲイ向け商業施設、ゲイコミュニティのキーパーソン等との協力関係を構築し、その利用者へのアプローチを進めてきた。

また、HIV/エイズに関連した行政や医療機関の情報をコミュニティに普及させるために、厚生労働省をはじめ、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県などのエイズ担当部署、保健所、公的HIV検査機関や、医療機関との関係性を構築し、連携を図っている。さらに啓発普及プロジェクトは、地域でHIVとMSMに関連した活動を行うNGO/NPOとの連携のもとに進めている。

ここでは、コミュニティセンターaktaの主な役割を「HIVとセクシュアルヘルスに関する情報の集約・発信ネットワークの基点(ハブ)」として定義する(図4)。

コミュニティセンターaktaは、次の機能を果たしている(図5)：

- 来場者への対応；必要な情報や必要に応じた相談の提供
- 啓発プロジェクトの企画・実施
- MSM向け啓発資料の作成と配布
- 関係機関・団体とのコラボレーション
- 保健所・公的HIV検査機関との連携による検査環境への介入
- 行政、検査施設との連携による資料の作成と配布
- フリースペース；フォーラム、展覧会、ワークショップ等の開催とコミュニティへの貸し出しによる新規来場者の誘導とHIV/AIDSの可視化

## (2) 来場者の動向

2013年度(2013年4月1日～12月31日、開館日数195日)の来場者数は5,787名であった。これにより、2003年9月のオープンから2013年12月末までの延べ総来場者は94,931名となった。また今年度来場者のうち初来場者は1,269名で

あった。

2013年度は1日平均29.7名(月平均643名)の来場があり、年齢も10代から70代までと幅広い年齢層の利用があった。

来場者数について、昨年同時期と比較すると(2012年4月1日～12月31日 開館日数212日 来場者数6,591名 新規来場者数1,345名)、総来場者数全体では804名減であった。ただし、昨年度と比較をして1日平均来場者数にそれほど大きな差がみられない(2012年度31.1名)ことから、今年度の来場者数の減少は2013年度6月よりセンターの開館曜日を変更したことの影響が大きいと考えられる。

一方で初来場者数割合をみると、今年度は21.9%と、昨年度と比較して微増した(2012年度20.4%)。これは、『TOKYO RAINBOW WEEK2013』や『パープルハンズ』などの多様な団体と連携したことや、NHK総合テレビ『探検バクモン』の番組内で本センターが紹介されたことに起因する。また、今年度は特に国内外からの見学や訪問、取材にセンターが積極的に対応したことも影響していると考えられる。

来場者の主な利用目的はドロップイン、ミーティング・講習会、展覧会・イベント、アウトリーチ他、コミュニティ情報の持ち込み・入手、見学、相談、HIV/STI情報等であった。初来場者の中には、当初ドロップインや講習会、イベントへの参加を目的に来場していたが、その後、HIV/エイズに関する情報や相談を目的に再来場するケースがみられた。またそうした来場者が、コミュニティセンターaktaで行うボランティアのアウトリーチ活動につながるケースもみられた。

## (3) 相談対応

ここでいう相談とは、コミュニティセンター開館中のオープンスペースでの相談であり、個室でのカウンセリング等を行っていない。セクシュアリティに配慮したピアな対応を基本の姿勢とし、傾聴と具体的な情報提供を主な方法としていて、相談内容に応じて関係機関・団体、資料等を紹介

する対応としている。

なお今年度も昨年度に引き続き、HIV/エイズに関連する行政、NGO やその他の関連領域機関との意見交換会を実施し、コミュニティセンターの支援・相談機能の強化を図ってきた。

相談件数は年々増加していたが、今年度はコミュニティセンター開館日の影響やリピータ率の減少があり、昨年度よりも件数は減少した(図6)。今年度の相談内容は、「HIV 陽性者として(仮になったとき)の生活・制度・支援」、HIV 感染不安、HIV 検査に関する相談・報告等が多くを占めていた。また医療機関に関するものや、メンタルヘルス領域として、薬物使用に関連するものもみられた。

## 2) 継続的な啓発資材の作成と配布

### (1)フリーペーパーとコンドームの作成

コミュニティセンターakta では、ゲイコミュニティに向けた月刊の情報誌として「コミュニティペーパーakta」を 2005 年から定期発行を行ってきた。その情報誌はコミュニティセンターakta の周知、HIV/エイズや STI の最新情報を発信することと、セクシュアリティの理解の促進を目的とし、多彩な記事内容の掲載や執筆者の参加により、コミュニティセンターを中心とした「情報の集約と発信」のネットワークを表現した。

年間 48,000 部を発行し、新宿二丁目バーおよびクラブ 165 店舗、性風俗店およびポルノショップ 47 店舗などのゲイ向け商業施設、また、行政・教育・医療・研究機関等 40 施設、保健所 49 施設、そして HIV 関連の NGO/NPO15 施設に配布を行ってきた。

今年度はコミュニティペーパーのターゲットおよび媒体形式について再検討を行い、2013 年 6 月にこれまで継続してきた形式での発行を休止した。ターゲットについては動向情報をふまえ、若年層 MSM に訴求するデザインおよび情報の必要性を検討した。媒体形式については、ターゲットに訴求力をもつ形式が必要でありかつ、一方で予算や人員などコストの面から本プログラムの継

続可能な形式を検討する必要があった。

こうした背景を踏まえて今年度、約 6 ヶ月間の休刊期間(2013 年 7 月～12 月)を経て、2014 年 1 月号より新たな形式でのコミュニティペーパーの発行、および配布を開始した(図 7)。新たなマンスリーペーパーでは掲載する記事数を限り、コミュニティセンター情報、相談情報、ゲイコミュニティ情報、HIV のファクト情報のバランスを図りながら掲載している。また、表紙モデルへのインタビューから、セクシュアルヘルスやセクシュアリティに関する語りの掲載を行っている。さらに表紙モデルやデザインについては 20 代の MSM を主なターゲット読者に設定し、企画・編集を行っている。

啓発資材として TAKE FREE CONDOM を、2003 年より毎年約 20 種類のデザインを行い、制作をしている。こうしたコンドームはバー等、ゲイ向け商業施設に配布している。新宿では今年度、165 店舗のバーに配布した。

紙製のコンドームパッケージには、ゲイコミュニティに人気のクリエイターとのコラボレーションを通じたデザインを行い、そこにセーフアセックスに関するメッセージを載せ、常に話題性とゲイ向け商業施設の環境への親和性をもったものを提供している。このコンドームは、年間に 63,000 個を制作・配布している。

### (2)配布活動

配布活動は、地域およびゲイ向け商業施設の業態に応じて、プロジェクト化を行っている(図 8)。新宿二丁目におけるゲイバーおよびクラブ 165 店舗については、「DELIVERY BOYS」プロジェクトを毎週金曜日に行っているなお、第 3 金曜日はアウトリーチスタッフの研修会のため、配布は行っていない。東京 23 区内のゲイ向け性風俗店 47 店舗については、「ADULT DELIVERY」プロジェクトとして毎月 1 回配布を行っている。

これらのプロジェクトは、単に資材を配布するだけではない。ゲイコミュニティにおいて定期的に顔と顔をあわせた配布を行うことにより、配布

先の商業施設やその利用者との信頼関係を構築し、さらにそこでのセクシュアルヘルスや街の動向に関する話題、環境などについて把握することを目的に実施されている。

また、新宿以外の渋谷、新橋、浅草・上野といった地域のバー85店舗についても訪問や郵送を行っている。特に中高年MSMが多く利用する浅草については訪問を行い、バーのマスター等との関係性の構築を行っている。その結果として、「Living Together のど自慢」などのイベントの浅草地域における実施につながった。

なお、地域でMSMとHIVに関連する機関・施設等(行政機関、教育機関、医療機関、研究機関、保健所、HIV関連NGO、セクシャリティ関連、自助グループ、メディア関連等)154件についてはコミュニティセンターaktaより郵送等で配布を行っている。

### 3) 予防行動促進キャンペーンの企画と実施 - akta safer sex campaign 2013

戦略研究では、そのアウトカムはMSMのHIV抗体検査受検を促進し、HIV感染に早期に気づく人々を増やし、エイズ発症を予防し、初回報告エイズ患者数を減少させることにあった。2006年以来、首都圏では検査普及を中心とした啓発に重点を置きながら、プログラムを展開してきた。

2010年に戦略研究が終了した後、それによって構築された支援・相談体制、MSM対応検査体制の継続を前提として、aktaは1次予防であるセクシュアルヘルスプロモーションとそれによるHIV感染予防を呼びかける啓発として「akta safer sex campaign」の企画・実施を行った。

#### (1) 目的

コミュニティセンターaktaのある新宿二丁目を基点に、首都圏のゲイコミュニティにおいて、今一度「セーフターセックス」というコンセプトを意識化、可視化させ、そして人々が身体化できる契機をつくり出すことを目的とする。啓発によるセーフターセックスのコンセプトを可視化の際には、人々がそのイメージをより「かっこいい

もの」としてポジティブに受け取るしかけ作りを行う。

#### (2) 方法

予防介入の対象としてはMSMのうち、まず、「<予防行動に迷いやゆらぎのある層>を設定した。こうした層に対し、特にセックスが行われる場に即した、訴求性をもつ資材を開発し、その資材のアウトリーチを行うことにより、セーフターなセックスを改めて提案することとした。

介入を行うベニューとしては、「ハッテン場」を中心として設定した。ゲイ向け性風俗店を対象とした理由は、セックスをすることがその場の中心的な目的になっていること、相当数のMSMが利用していることがこれまでの調査等で明らかになっており、ゲイコミュニティ全体に対して大きな発信の効果および波及効果が予想されること、商業施設であることで、その場を運営するオーナーやスタッフと連携が取れる可能性が予想できることがあげられる。

こうしたゲイ向け商業施設を対象としたアウトリーチ活動を通じて、2つのレベルでの介入効果の指標を設定した。第1に個人のレベルでは、ゲイ向け商業施設利用者が自分なりのセーフターセックスのガイドラインを再考する契機を得て、その結果、利用者のアナルセックス時のコンドーム使用率が向上することがあげられる。第2にベニューであるゲイ向け商業施設のレベルでは、施設のオーナー、スタッフとの意見交換を前提としたキャンペーンを展開することにより、施設的环境が利用者にとって安心してセーフターセックスを行うことができるものに変えていく。そして第3に、利用者を多くかかえ、ゲイコミュニティに大きな発信の効果が予想できるゲイ向け性風俗店でキャンペーンを展開することにより、ゲイコミュニティ全体へセーフターセックスのコンセプトを波及させることを検討した。

なお、このプログラムは2012年より3ヶ年展開するものとして設計された(図9)。

2013年度キャンペーン展開期間：7月5日～21日、8月30日～10月31日まで(79日間)

#### キャンペーンの構成

2013年度は、介入するベニューを主に3つに分けてキャンペーンを実施した。関係性を密に築いたハッテン場2店舗において、施設内に、利用者の手の届きやすいところにコンドームを設置し、コンドーム使用を促進する。昨年度より本キャンペーンに協力・参加するハッテン場15店舗(のハッテン場2施設も含む)において、セーフターセックスに関するポスター4種類の掲示、セーフターセックスに関するリーフレット、保健所マップ、およびローション付きコンドームの配布を実施する。新宿にあるゲイバーを対象に、ポスター4種類の配布・掲示、キャンペーンコンドーム、セーフターセックスに関するリーフレット、保健所マップの配布を実施した。

今年度は大きく分けて、3つの期間にそれぞれのプログラムを実施した。以下、時系列毎に整理した(図10)。

#### 第 期(7月5日～7月21日)

関係性を密に築いたハッテン場において、利用者を対象としたGCQアンケートのリクルートを実施した。介入前の、同施設の利用者を対象に横断調査を行うことにより、ベースラインを明らかにすることを目的とした。

#### 第 期(8月30日～10月3日)

8月30日にコミュニティセンターaktaにおいて実施した、トークショー「HIVとセーフターセックス」をキックオフとし、ハッテン場、バー等での啓発を開始した。

ゲイ雑誌との連携のもと、それぞれの施設に配布・掲示したポスターには人気モデルを起用して、耳目を集める工夫を凝らした。ポスターに掲載している情報は、コミュニティセンター等でよく相談・質問を受ける行為、キス、フェラチオ、アナルセックスにおけるHIVの感染可能性について

扱っている。さらにセックス時のリスクを減少させるための予防の工夫を掲載した。

また、ポスターに掲載した情報や、さらに詳細な内容を記載したカードを作成し、ハッテン場、バー利用者に対して配布を行った。

密に関係を築いたハッテン場2店舗については、本期間中、施設内の複数の場所においてコンドームディスペンサーの設置とコンドームの随時補充を行った。このことにより、ハッテン場利用者のコンドーム使用率を向上させることを狙った。

#### 第 期(10月4日～10月31日)

第 期で起用したモデルを再度起用し、HIV検査促進のためのメッセージを掲載したポスター、および具体的な検査施設の情報を掲載した保健所マップを作成し、ハッテン場およびバーを対象に配布を行った。

なお、上記3期間においては、ゲイ雑誌による本キャンペーンの取材記事の掲載、キャンペーンウェブサイトの開設(図11)、ゲイ向けクラブイベントでのキャンペーンブース展開などを実施し、積極的な広報を行った(図12)。

#### 協力施設のガイドライン

ゲイ向け商業施設と協力関係を結び、キャンペーンを展開するにあたり、ガイドラインを設定した(図13)。ガイドラインは以下の5点である：

利用者がコンドームやローションをより使いやすいように工夫をしていたり、あるいは今後そうした取り組みを行う意思がある、違法・脱法ドラッグを販売していない、違法・脱法ドラッグの使用を推奨しない、HIV陽性者を排除するような案内が店内にない、キャンペーン終了後もaktaと意見交換を行ったり、引き続きHIV/エイズや性感染症の予防に関する自主的な取り組みを行う意思がある。既にaktaの配布活動に協力している等、関係性のあるゲイ向け性風俗店に協力依頼を郵送し、上記のガイドラインを検討したうえで参加を募った。その結果、新宿12店

舗、上野2店舗、浅草1店舗の協力を得ることができた。

本プロジェクトの効果評価は、本研究班のコミュニティネットワークを用いたMSMを対象とする性の健康、HIV/AIDS感染予防行動に関する質問紙調査-GCQアンケート-(以下、GCQアンケート)を通じて行った。また、ゲイ向け性風俗店のオーナーとの継続的な意見交換を行い、その際に、介入前の聞き取った語りと介入後の聞き取り内容の比較を通じて、環境への介入効果を検討した。

### (3)結果

第 期について、首都圏にあるゲイ向け性風俗店のうち、15店舗の協力を得て、利用者を対象に冊子やローションつきコンドームを配布した。これらの資材の総数は10,000セットとなった。また、ポスター等掲示物を目に触れる機会とすると、のべ累積37,600人の商業施設利用者へ訴求することができた。

セーフターセックスキャンペーンを昨年度から引き続き実施したことにより、協力店や関係者との連携が強化された。その結果、ハッテン場オーナーとの複数回にのぼる意見交換会を実施し、セクシュアルヘルスを促進するためのプログラムのあり方の検討、企画を行うことができた。

これらの連携関係により、商業施設からaktaの作成する資材提供を依頼され、また複数の施設で実施するイベントへの協力なども始まった。後者は特に、商業施設による自発的な、セクシュアルヘルスに関する活動の端緒ということができる。

なお、GCQアンケート(3-2)を参照)を通じた効果評価および、ゲイ向け風俗店のオーナーを対象とした聞き取り内容の検討を現在分析中である。

### 4)Living Together 計画

多様性を伴った視点から、「全ての人HIVとともに生きている」というリアリティを共有するためのプロジェクトとして、ぷれいす東京とaktaの協働のもとに2003年より開始した。キーメッ

セージは「HIVに感染している人も、感染していない人も、どちらかわからない人も、すでにHIVとともに生きている」である。このメッセージを伝える手法としては、HIV陽性者や家族やその周囲のひとたちが書いた手記を第三者が朗読し、その感想を語ることを通じてHIVのリアリティを伝えることであり、その表現する方法は対象に即して様々に展開している。こうした手法をとることによって、社会におけるHIV/エイズ、HIV陽性者やその周囲の人たちの存在を可視化し、人々にHIVの問題に対して向き合うことを促すプロジェクトになっている(図14)。

aktaは、Living Together計画と協働しながら、HIVのリアリティを伝え、予防行動や検査行動を促進するイベントを企画・開催してきた。

#### (1)Living Together のど自慢

LTのど自慢は、5人のゲストによるHIV陽性者とその周囲の人々が書いた手記の朗読と、カラオケパフォーマンス、そして3人のコメンテーターによる感想によって構成されるイベントである。本イベントは2006年より新宿二丁目にある老舗のバー「スナック九州男」を中心に、四半期に1回のペースで開催している。2013年度の年間来場者(本報告執筆時点では3回分)は172名であった。

課題としては、参加者の動員強化があげられる。動員にはイベントの出演者に負うところが多いが、手記朗読と感想を述べる際にはある程度出演者のプライベートなことを開示するため、出演者が近しい人を含め広く周知することに難しさを感じるなどの声が聞かれた。

こうしたことを踏まえ、イベント会場の提供を受けているバーのママなどと出演者のリクルートとイベントの広報を分担することでママのもつネットワークも活用し、新たな出場者やイベントへの新規来場者の動員へと拡がりが見られている。また、行政のHIV担当者がイベントに出演することによって、連携の機会としている。

今年度は昨年に引き続き、東京東部地域での本イベントの企画を行っている。上野・浅草地域の

商業施設オーナーや、保健所、エイズ治療拠点病院それぞれとの意見交換を経て、2014年3月に開催予定である。

## (2)akta tag tour

Living Together Lounge が終了したことを受け、2012年度から新たに企画・実施したのがakta tag tour である。本イベントは、akta とゲイコミュニティにおける人気チームと「タッグ」を組んで実施することにより、今まで啓発のメッセージが届いていない層や若年層に啓発を行うことを目的としている。

2013年度にタッグを組んだチームは、TOKYO RAINBOW WEEK2013、新宿二丁目大ゆかた祭り、サークル「平成元年会」、慶應義塾大学三田祭があげられる。akta tag tour は、新宿二丁目にある商業施設「AISOTOPE LOUNGE」において開催している(ただし、本年実施した三田祭については、学園祭メインステージにて実施した)(図15)。

イベントの構成は、4人のゲストによるHIV陽性者・家族やその周囲の人たちが書いた手記の朗読と、2組のライブ・パフォーマンスとなっている。

タッグを組むイベントのコーディネーターや朗読者、またイベントに関わるDJやパフォーマー等と事前にミーティングを持つことで、企画の趣旨とHIVの現状を共有し、HIV/エイズに関するメッセージの発信者を育てている。また行政のHIV担当者も出演し、連携の機会ともなっている。

2013年度の年間来場者は212名(三田祭のステージ観覧者の数は除く)と、イベント参加者総数はまだ多くはないものの、新規参加者を獲得することができた。

課題としては、ゲイコミュニティにおける啓発のメッセージが届いていない層のさらなる動員を図るため、イベントのもつブランドを高め、周知を行うことが必要である。

## 5) 行政、検査施設等との連携

新宿区保健所、港区みなと保健所、東京都福祉

保健局、医療法人社団大和会多摩川病院(東京都委託事業)などのMSMを対象とした行政・保健所の検査普及のための資材開発・配布等、アウトリーチに協力した。また今年度も、厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団が呼びかける「世界エイズデー」キャンペーンテーマ検討会や東京都世界エイズデーポスター審議会、viivヘルスケア新宿二丁目壁面広告審査会にも参画した。

## 6) その他の事業

コミュニティセンターakta では2011年より「HIVの今を知るTalk Show」として、HIVとそれに関連する領域のアクチュアリティをもった話題について、ゲストを招いたトークイベントを行ってきた。2013年度は「HIVとセーファーセックス」(8月30日)、「ボクのヤリかた」(9月22日)のテーマで開催した。さらにHIV治療の基礎や薬物依存に関する内容のトークショーを2014年3月に実施予定である。なお、本プログラムは東京都福祉保健局の委託事業として実施した。

学齢期の若年層に対するHIVおよびセクシュアルヘルスの啓発として2013年度は複数の私立大学をはじめ、IMFAS-JAPAN日本総会、SCORA、アフリカ日本協議会、LGBT Youth Japanなどで講演を行った。加えて、宇都宮市保健所にて、保健所職員向けのセクシュアリティとHIVに関する研修会を実施した。また、地域の養護教諭を対象とした研修会を、埼玉県鴻巣保健所と連携して実施する(14年2月実施予定)。

## 2. 首都圏地域に居住するMSMを対象としたHIV抗体検査受検行動を促進するための介入研究

### 1) 地域におけるMSMを対象とするHIV抗体検査体制の整備

ぶれいす東京とaktaは協働して、首都圏居住のMSMに向けてHIV抗体検査受検促進等の体制整備および啓発普及に取り組む、「MSM首都圏グループ」を形成した。これが、2011年3月の戦略研究の終了の後、首都圏におけるMSMのHIV対策に取り組む協働体制となった。MSM首都圏グループの

啓発対象地域は、ゲイ向け商業施設のある地域では新宿、上野・浅草、新橋、渋谷、横浜である。また東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の地域で商業施設のない地域については、マスメディアやウェブなど、各種メディアを介して啓発普及を行うこととした。

2006年度から2010年度には戦略研究において、行政や保健所・公的 HIV 検査機関等との関係を構築し、首都圏の MSM に対してウェブサイト「あんしん HIV 検査サーチ」などを通じて受検を推奨してきた。しかし、戦略研究が終了したことにより、この関係性が中断され、首都圏における MSM の HIV 検査受検環境が後退することを避けなければならない。そのため、再度 MSM 対象の HIV 検査が実施できる保健所や医療機関とのネットワーク構築を進め、さらに 2011 年からは新たに埼玉県との連携が始まった。

MSM の受検行動を促進させるため、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県にある自治体や保健所・公的 HIV 検査施設と連携し、自治体・保健所等との「エイズ対策事業に関する意見交換会」の実施、保健所等の HIV 検査従事者を対象とした研修会、MSM を対象とする検査普及資料「ヤローページ」の企画、作成、配布、ウェブサイト「HIV マップ」と連動した支援情報、検査情報の広報等を企画、実施した。これら一連の、首都圏居住の MSM を対象とした HIV 抗体検査普及のための体制整備および普及プロジェクトを、ここでは「ヤロープロジェクト」と命名し、実施した(図 16)。

#### (1) エイズ対策事業に関する意見交換会

2011 年度より開始した当プロジェクトは、厚生労働省の定める年 2 回の検査普及週間(6 月、12 月)にあわせて、年に 2 回実施している。首都圏における各自治体担当者、協力保健所・公的 HIV 検査機関等を対象に、意見交換会の参加を呼びかけている。この会の目的は、MSM 首都圏グループの取り組みと成果の報告、保健師(検査担当者)を対象とする研修会の説明、首都圏居住の MSM を対象とする、HIV 検査促進の啓発資料「ヤローページ」の企画説明と臨時・定例検査情報の

提供依頼、HIV 受検者アンケートの説明および速報と協力依頼、各地域担当者との情報交換としている。

今年度は 2013 年 8 月 7 日に実施し、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の機関から各自治体担当者・保健所等の HIV 検査担当者、オブザーバー(公益財団法人エイズ予防財団、国立感染症研究所、国立国際医療研究センター ACC)の参加があった。NGO/NPO と 4 都県の保健所・公的 HIV 検査機関の検査担当者が一堂に会し、それぞれの検査機関での経験について共有することで、首都圏の HIV 検査体制自体の課題を検討し、また日々の業務レベルでの役立つ知見を共有することができた。受検者アンケートの速報については、昨年度報告したが「検査業務を実践するなかで得ていた感覚を、利用者の経験を知ることで、方向性を再確認することができた」といった意見があった。

MSM 首都圏グループが基点(ハブ)となり、NGO/NPO と自治体、保健所・公的 HIV 検査機関との行政区域を越えた意見交換の場をもつことで、経験の共有にとどまらず、MSM を対象とした HIV 検査普及のための戦略および体制づくりにつながった。

#### (2) 保健所等の HIV 検査担当者への研修会

東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の HIV 検査担当者を対象とした研修会を各自治体と協働して企画・実施した。その内容は HIV 陽性者やその周囲の人々の書いた手記リーディング、セクシュアリティ理解、首都圏の MSM における HIV 感染の疫学動向、そして MSM 受検者や HIV 陽性者への相談・対応に関する、当事者参加による模擬対応を各自治体と協働して企画・実施した。東京都(6 月 21 日)は 22 名、神奈川県(11 月 1 日)は 19 名、千葉県(10 月 22 日)は 13 名、埼玉県(10 月 4 日)は 13 名が参加した(図 17)。

参加者からは、昨年度示したが「性的な話題に対して対応のなかで取り扱うことに抵抗感があったが、研修を通じてその抵抗感を意識化することができ、業務で自分の弱点を自覚しながら取

り組むことができると思えるようになった。」「普段接している来所者やその可能性のある人のなかに、MSM がいる可能性があるという身近感を得ることができた。」「陽性告知についても、他の NGO/NPO と連携したり、様々な資材を活用することで、少し落ち着いて対応ができるようになった」などの反応がみられている。

このように、本研修会は検査担当者の MSM や HIV/エイズおよび HIV 陽性者への理解を深めることによって、そうしたケースへの準備性を高め、日々の業務のなかで適切な対応ができるように促すことを目的に実施した。

なお戦略研究以来、首都圏で行われているこうした研修会の取り組みは、東北地域、沖縄地域においても実施され、また、その他の地域でも本取り組みを参照した研修会が展開された。

### (3) MSM を対象とする HIV 検査受検行動促進

#### 1) 啓発資材の開発と普及- ヤローページ

MSM が利用する首都圏のゲイスポット情報(ゲイ向け商業施設およびその周辺地域のマップ)と、MSM が安心して受けることのできる保健所・公的 HIV 検査施設の通常検査・臨時検査情報、そして MSM の文脈で編集をした HIV の基礎知識、支援・相談情報を掲載した啓発冊子を企画・制作し、首都圏のゲイ向け商業施設を対象に配布を行った(図 18)。

この取り組みは 2011 年度より開始した。昨年度ゲイ向け商業施設情報を収集・掲載するにあたり、掲載のためのガイドラインを検討・設定を行い、今年度もこのガイドラインに沿って収集・掲載を行った。作業プロセスは以下の通りである。まず、ゲイ向け商業施設に事前のアンケートを行い、ガイドラインに応じて掲載の可否を検討・実施した(図 19)。このゲイ向け商業施設の掲載ガイドラインは、本誌「ヤローページ」等、HIV や性の健康に関する情報グッズの設置に協力する、

MSM 首都圏グループが企画・編集する「ヤローページ」への店舗情報の掲載を希望する、違法・脱法ドラッグの利用を禁止している、違

法・脱法ドラッグの販売を行っていない、の 4 点とした。

そしてこのガイドラインについて回答を行った、新宿、上野・浅草、新橋、渋谷、横浜、千葉、さいたまなどのゲイ向け商業施設 294 店舗(2012 年度 289 店舗)について、その情報の掲載を行った。なお、それぞれの商業施設情報について、掲載確認などコミュニケーションを行った結果、商業施設との関係性を深めることができた。

MSM 首都圏グループが企画・制作する MSM 向け検査普及のための資材への掲載ガイドラインは、保健所・公的検査機関についての設定を行った。

都県と MSM 首都圏グループが実施する、検査従事者を対象とした MSM 対応のための研修会への参加、エイズ対策のための意見交換会への参加、

施設での MSM 首都圏グループや akta が手がけた資材の活用、HIV 検査の結果告知(陽性/陰性)の方法の情報共有、を掲載のためのガイドラインとした。これらを満たしている東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の 63 施設(2012 年度は 56 施設)を掲載した。2011 年度より広報対象の検査施設に埼玉県下の保健所・公的 HIV 検査機関のさらなる参加に加え、東京都、神奈川県、千葉県の新たな施設についても追加して参加があり、検査情報のカバーエリアを拡大することができた。

今年度は「ヤローページ 2013 秋冬号」を 11 月に 8,000 部制作し、配布を行った。なお今年度は予算が減少したことを受け、昨年度のように 6 月の検査普及週間に縮刷版の「ヤローページ」を発行することができなかった。

配布は厚生労働省の定める HIV 検査普及週間にあわせて行った。477 ヶ所のゲイ向け商業施設等へのアウトリーチを行うことを通じて、その場を利用する MSM を対象に、477 ヶ所からの情報発信を行う体制をつくることができた(図 20)。

「ヤローページ」は、HIV/エイズおよびその検査情報とゲイ向け商業施設情報をパッケージ化することにより、アウトリーチ対象の MSM に対する訴求性を資材にもたせること、また読者がそれぞれのゲイライフのなかに HIV 検査を位置づける

契機づくりを目的に企画・制作した。この冊子をゲイ向け商業施設等の首都圏にある477ヶ所に配布を行うことにより、HIV検査情報を積極的に探していないMSM層に対し、検査情報に触れるコンタクトポイントを増やす機会となった。また、ゲイ向け商業施設情報をパッケージ化することで、アウトリーチに協力する商業施設にとってもメリットを感じられる資料となり、より積極的な協力を得ることができた。つまり、「ヤローページ」は首都圏のゲイコミュニティにおけるHIV検査に関する環境介入を目的に作成された資料であり、その実施を今年度も行った。

## 2) 相談体制の整備

戦略研究では、HIVに関連して生じる様々な相談ニーズ、特にMSM向けの相談を対応可能なNGO/NPO等と連携し、相談窓口を紹介するウェブサイト「HIVマップ」を制作した。「HIVマップ」は、MSMに向けてHIV検査普及啓発を行うのに先だって、HIV感染不安やHIV陽性告知後の不安等に対応した支援・相談の情報提供体制整備の一環として位置づけている(図21)。

「HIVマップ」は2011年度から厚生労働省の委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業 同性愛者向けホームページによる検査相談等情報提供」として、ぶれいす東京が受託運営を行ってきたが、2013年よりaktaが受託することとなった。

このサイトはMSM首都圏グループと連動して運営されており、MSM首都圏グループが紹介する保健所・公的HIV検査施設等の検査情報は「あんしんHIV検査サーチ」としてウェブ上での広報を行っている。その他、HIV/エイズの基礎情報を伝える「HIV/エイズガイド」、疫学やこれまでの調査から明らかになっているMSMとHIVに関するファクトを伝える「データでみる、ゲイ・バイセクシャルとHIV/エイズ情報ファイル」などのコンテンツを備え、HIVの総合情報サイトとなっている。

本サイトの利用者の動向は、google analytics

を用いてモニタリングを行っている。以下では、2013年度の「HIVマップ」の利用者の動向について報告する(以下の「HIVマップ」に関するデータはすべて2013年4月1日から12月31日の期間のものである)(図22)。

2013年度の「HIVマップ」の訪問者数(セッション数)は103,461件であった(月平均11,495.7件)。そのうち、google analyticsで把握可能な新規訪問者割合は69.1%であった。ページビュー数は286,177ページであり、訪問者平均ページビュー数は2.77ページであった。昨年の同期間と比較すると、新規訪問者割合は減少したが(2012年度70.49%)、総訪問者数は12.57%増加していた(2012年度91,906件)。しかしその一方で、訪問者平均ページビュー数は減少していた(2012年度2.98ページ)。このことから、新規訪問者割合は減少傾向にあったが総訪問者数は増加傾向にあること、またその一方で、2012年度の訪問者はHIVマップの各コンテンツを前年と比較してよりやや少なくみていることが明らかになった。

2013年度の主な各コンテンツのページビュー数は下記の通りである。HIVお役立ちナビ(支援・相談情報)が29,202件(総ページビュー数における割合10.2%)、あんしんHIV検査サーチ(検査情報)が70,751件(24.7%)、HIV/エイズガイド(HIV/エイズ基礎情報)が64,258件(22.5%)、HIV/エイズ情報ファイル(疫学・ファクト情報)が43,601件(15.2%)であった。あんしんHIV検査サーチが最もページビュー数の多いコンテンツであった要因として、検査情報にニーズがあることと頻りに情報を更新していたことが挙げられる。

加えて、2013年度にはHIVマップ利用者の閲覧に用いているデバイス機器についても変化があった。HIVマップを閲覧する際にPCを用いている割合は前年と比較して24.3%減少(2011年79,810件 12年53,650件 13年40,631件)しているのに対し、スマートフォン・タブレット等のデバイスを用いている割合は64.2%増加していた(11年24,484件 12年38,256件 13年62,830件)。

これにより、HIV マップを閲覧するためにユーザーが使用する機器の割合は、本年度、PC よりもスマートフォン・タブレットの方が高い逆転が起こった。この傾向がHIV マップ利用者に特有の傾向であるのか、あるいはウェブ利用者全体の傾向を反映しているのかを明らかにするためには、他ウェブサイトとの比較等、より詳細な分析による検討が必要である。今後のウェブ上での情報提供の方法を検討する上で、このトレンドを把握することはとても重要である。

上記を踏まえると、HIV マップの課題として、HIV/エイズに関する情報について潜在的ニーズをもつ、新規利用者を多く獲得する仕掛けづくりをすること、HIV マップ利用者のデバイス機器環境の変化にあわせた情報提供の方法の準備が挙げられる。

### 3. 首都圏のMSMにおける啓発介入評価調査

#### 1) HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

保健所・公的 HIV 検査機関の HIV 検査受検者を対象にアンケート調査を行い、MSM 受検者の動向把握および啓発介入に用いた資材認知を評価した。

##### (1) 研究方法

東京都 18 箇所、神奈川県 8 箇所(臨時検査を含む)、千葉県 12 箇所の保健所等の協力を得て HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査を実施した。本調査は 2011 年度から継続して実施しており 3 年目にあたる。本分析では 2013 年 1 月から 2013 年 9 月末までに得られた回答者を対象に分析した。

方法は、HIV を含む性感染症の検査受検者に調査回答を依頼し、同意の得られた受検者から回答を得た。通常検査、即日検査のいずれの場合も検査結果が返却される前に質問紙を記入することを依頼した。記入後は回答者が回答用封筒に質問紙を密封し、各機関に設置された回収箱に投函する方法とした。集められた質問紙は毎月月末に各機関で回収し、調査事務局へ密封したまま郵送された。

質問項目は基本属性、HIV 抗体検査受検経験、HIV や検査に対する意識、性行動、資材認知等とした。資材や CBO の活動の認知には画像を使用した。

調査の概要として東京都 17 箇所、南新宿検査相談室、神奈川県 8 箇所(臨時検査を含む)、千葉県 12 箇所別に HIV 抗体検査実施状況および陽性判明数(率)を男女別に表 1 に示した。質問紙回収率は 47.1%~92.7%であった。

年齢・居住地・性別・生涯の HIV 抗体検査経験について無回答であったものを除き、有効回答とした。その他の項目について無回答であった場合はいずれかの選択肢に含めて集計した。年齢層は 24 歳以下、25-34 歳、35-44 歳、45 歳以上の 4 群に分類した。年齢無回答であった人を除く平均年齢は、東京都 32 歳±10 歳であり最少年齢 15 歳、最高年齢 77 歳、南新宿検査・相談室 33 歳±10 歳であり最少年齢 14 歳、最高年齢 78 歳、神奈川県 33 歳±10 歳であり最少年齢 13 歳、最高年齢 87 歳、千葉県 34 歳±12 歳であり最少年齢 13 歳、最高年齢 87 歳であった。

2013 年 1 月から新たに HIV/STI や検査に関する知識として以下の 5 項目を追加した。ウィンドウピリオドについて「通常の HIV 検査では、感染から 2~3 ヶ月経過しないと感染しているかどうか分からない(正答)」、偽陽性の可能性について「HIV 即日検査や郵送検査キットでは、感染していても陽性(感染している)と結果が出ることもある。(正答)」、偽陽性の場合、再検査の必要性があることについて「HIV 即日検査や郵送検査キットでは、検査結果を確認するため病院などで再度検査が必要になる場合がある。(正答)」、重複感染について「性感染症に感染していると、HIV に感染しやすくなる。(正答)」、服薬治療について「HIV 感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった。(正答)」。これらの項目の追加にあたっては各保健所担当者や CBO 等の当事者と検討を重ねた。

分析では、性別が男性であり「これまでにセッ

クスをした相手の性別」が男性または両性であったと回答した人を MSM とした。性別が男性であり MSM ではなかった人を MSM 以外の男性とした。MSM 以外の男性、女性、MSM の 3 群に分類し、各群における差異について検討した(表 2)。

そして MSM 群における CBO の活動や資材の認知によってなし群とあり群に分類し、その 2 群間の差異を検討することによって、介入の効果評価を試みた(表 3)。

## (2) 研究結果

### 東京都内保健所(南新宿検査・相談室を除く)

2013年1月から9月末の総受検件数は5,765件、このうち陽性判明数は 22 件(0.38%)、質問紙回収数は 4,463 件(77.4%)であった(表 1)。

質問紙回答者に占める MSM 割合は 15.7%(男性中では 23.0%)であった。MSM 以外男性、女性、MSM でそれぞれの初回受検者割合は 59.7%、62.5%、27.4%( $p<0.01$ )、居住地が東京都内の割合は 81.7%、86.6%、78.1%( $p<0.01$ )、居住形態が 1 人暮らしの割合は 39.7%、35.7%、55.8% ( $p<0.01$ )、既婚者の割合は 33.3%、20.2%、8.0% ( $p<0.01$ )、健康保険未加入の割合は 3.5%、6.4%、5.1%( $p<0.01$ )であった(表 2-1))。

MSM 以外男性、女性、MSM それぞれの HIV/STI や検査に関する知識の正答割合は、「ウィンドウピリオドについて」が 88.4%、87.3%、93.0% ( $p<0.01$ )、「偽陽性の可能性について」が 54.2%、45.7%、62.8% ( $p<0.01$ )、「偽陽性の場合の再検査の必要性について」が 69.7%、67.3%、77.4% ( $p<0.01$ )、「重複感染について」が 72.7%、67.6%、79.4% ( $p<0.01$ )、「服薬治療について」が 79.7%、76.7%、85.3% ( $p<0.01$ )であった。

周囲との関わりについて MSM 以外男性、女性、MSM それぞれでみると、HIV や性感染症について、困った時や不安な時に「家族に相談できる・できると思う」と回答した割合は 34.8%、40.6%、21.7% ( $p<0.01$ )、「身近な友達に相談できる・できると思う」と回答した割合は 31.3%、42.7%、51.5% ( $p<0.01$ )であった。また「相談できる場所

を知っている」と回答した割合はそれぞれ 46.2%、44.2%、66.6% ( $p<0.01$ )であった。

性行動について MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで過去 6 ヶ月に「金銭を支払ってセックスをした」割合は 46.2%、0.6%、15.3% ( $p<0.01$ )、「金銭を受け取ってセックスをした」割合は 0.7%、9.4%、4.4% ( $p<0.01$ )であった。また性感染症既往歴の割合は MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで 17.6%、27.7%、24.9% ( $p<0.01$ )であった。

広報資材の認知割合について MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで「各行政のホームページ」が 19.1%、18.9%、30.3% ( $p<0.01$ )、「各行政の紙資材」が 20.3%、20.3%、25.9% ( $p<0.01$ )、「首都圏の CBO 活動による資材」が 6.6%、8.2%、31.0% ( $p<0.01$ )、「HIV マップ」が 5.2%、5.6%、17.1% ( $p<0.01$ )、「HIV 検査・相談マップ」が 30.6%、37.7%、41.8% ( $p<0.01$ )、「AC 広告」が 6.2%、9.1%、14.7% ( $p<0.01$ )であった(表 2-1))。

MSM 群における CBO の活動や資材の認知なし群と認知あり群を比較したところ、有意な関連がみられたのは、以下のようであった(表 3-1))。

認知なし群と認知あり群でそれぞれ初回受検者割合は 33.2%と 14.6% ( $p<0.01$ )、既婚者の割合は 9.7%と 4.2% ( $p=0.04$ )であった。

周囲との関わりについて認知なし群と認知あり群それぞれで、HIV や性感染症について、困った時や不安な時に、「身近な友達に相談できる・できると思う」と回答した割合は 45.5%と 64.8% ( $p<0.01$ )であった。また「相談できる場所を知っている」と回答した割合はそれぞれ 59.6%と 82.2% ( $p<0.01$ )であった。

性感染症既往歴の割合は、認知なし群と認知あり群それぞれで 22.4%と 30.5% ( $p=0.02$ )であった。

広報資材の認知割合については、認知なし群と認知あり群それぞれで「各行政のホームページ」は 25.8%と 40.4% ( $p<0.01$ )、「各行政の紙資材」は 21.6%と 35.7% ( $p<0.01$ )、「HIV マップ」は 10.8%と 31.0% ( $p<0.01$ )、「HIV 検査・相談マッ

プ」は 37.2%と 52.1%( $p<0.01$ )、「AC 広告」は 8.0%と 29.6% ( $p<0.01$ )であった。

### 南新宿検査・相談室

2013年1月から9月末の総受検件数は7,351件、このうち陽性判明数は66件(0.9%)、質問紙回収数は3,464件(47.1%)であった(表1-2))。MSM 割合は27.1%(男性中では39.9%)であった。

MSM 以外男性、女性、MSM でそれぞれの初回受検者割合は56.6%、64.9%、25.3%( $p<0.01$ )、居住地が東京都内の割合は74.4%、80.3%、76.5% ( $p<0.01$ )、居住形態が1人暮らしの割合は44.2%、48.2%、59.4%( $p<0.01$ )、既婚者の割合は33.8%、12.3%、7.8%( $p<0.01$ )、健康保険未加入の割合は2.1%、2.7%、3.0%( $p<0.01$ )であった(表2-2))。

MSM 以外男性、女性、MSM それぞれの HIV/STI や検査に関する知識の正答割合は「ウィンドウピリオドについて」が90.6%、87.8%、93.7% ( $p<0.01$ )、「偽陽性の可能性について」が51.8%、43.1%、56.1%( $p<0.01$ )、「偽陽性の場合の再検査の必要性について」が67.5%、67.0%、72.8% ( $p=0.04$ )、「重複感染について」が67.0%、60.5%、72.8%( $p<0.01$ )、「服薬治療について」が87.4%、85.9%、90.2% ( $p=0.06$ )であった。

周囲との関わりについて MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで HIV や性感染症について、困った時や不安な時に「家族に相談できる・できると思う」と回答した割合は33.9%、35.2%、19.8% ( $p<0.01$ )、「身近な友達に相談できる・できると思う」と回答した割合は28.5%、40.3%、49.9% ( $p<0.01$ )であった。また「相談できる場所を知っている」と回答した割合はそれぞれ57.5%、54.4%、65.4%( $p<0.01$ )であった。

性行動について MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで過去6ヶ月に「金銭を支払ってセックスをした」割合は49.1%、0.5%、13.0%( $p<0.01$ )、「金銭を受け取ってセックスをした」割合は0.4%、8.2%、4.2%( $p<0.01$ )であった。また性感染症既往歴の割合は MSM 以外男性、女性、MSM

それぞれで19.6%、25.5%、31.6%( $p<0.01$ )であった。

広報資材の認知割合について MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで「各行政のホームページ」が27.1%、21.8%、32.2%( $p<0.01$ )、「各行政の紙資材」が18.8%、19.8%、21.1%( $p=0.40$ )、「首都圏の CBO 活動による資材」が4.9%、5.2%、39.2%( $p<0.01$ )、「HIV マップ」が5.1%、4.1%、15.8%( $p<0.01$ )、「HIV 検査・相談マップ」が30.6%、38.5%、33.3%( $p<0.01$ )、「AC 広告」が11.3%、13.1%、18.9%( $p<0.01$ )であった(表2-1))。

MSM 群における CBO の活動や資材の認知によって認知なし群と認知あり群を比較したところ有意な関連が見られたのは以下のものであった(表3-2))。

認知なし群と認知あり群でそれぞれ初回受検者割合は31.6%と15.6%( $p<0.01$ )、既婚者の割合は10.8%と3.3%( $p<0.01$ )であった。

認知なし群と認知あり群それぞれの HIV/STI や検査に関する知識の正答割合は「偽陽性の可能性について」が52.7%と61.4%( $p=0.02$ )、「重複感染について」が69.6%と77.8% ( $p=0.02$ )、「服薬治療について」が88.5%と92.9% ( $p=0.04$ )であった。

周囲との関わりについて認知なし群と認知あり群それぞれで、HIV や性感染症について、困った時や不安な時に、「身近な友達に相談できる・できると思う」と回答した割合は45.2%と57.3% ( $p<0.01$ )であった。また「相談できる場所を知っている」と回答した割合はそれぞれ56.7%と78.9%( $p<0.01$ )であった。

また認知なし群と認知あり群それぞれで過去6ヶ月間の HIV 感染不安が「よくあった/時々あった」とした割合は41.2%と50.7%( $p=0.01$ )、性感染症既往歴の割合は27.7%と37.5%( $p<0.01$ )であった。

広報資材の認知割合については、認知なし群と認知あり群それぞれで「各行政の紙資材」が14.8%と30.7%( $p<0.01$ )、「HIV マップ」が6.9%と29.6% ( $p<0.01$ )、「HIV 検査・相談マップ」が

27.0%と43.0%( $p<0.01$ )、「AC 広告」が12.4%と29.0% ( $p<0.01$ )であった。

#### 神奈川県内保健所等

2013年1月から9月末の総受検件数は2,950件、このうち陽性判明数は12件(0.41%)、質問紙回収数は2,734件(92.7%)であった(表1-3))。MSM割合は12.5%(男性中では18.1%)であった。

MSM 以外男性、女性、MSM でそれぞれの初回受検者割合は54.7%、60.5%、25.7%( $p<0.01$ )、居住地が神奈川県内の割合は84.6%、86.6%、83.8%( $p=0.35$ )、居住形態が1人暮らしの割合は34.9%、28.7%、44.0%( $p<0.01$ )、既婚者の割合は36.8%、16.2%、10.5%( $p<0.01$ )、健康保険未加入の割合は3.8%、5.3%、4.5%( $p<0.01$ )であった(表2-3))。

MSM 以外男性、女性、MSM それぞれの HIV/STI や検査に関する知識の正答割合は「ウィンドウペリオドについて」が84.3%、85.4%、89.8% ( $p=0.04$ )、「偽陽性の可能性について」が61.7%、56.3%、74.3%( $p<0.01$ )、「偽陽性の場合の再検査の必要性について」が72.9%、70.0%、79.3% ( $p=0.02$ )、「重複感染について」が70.0%、64.4%、74.6%( $p<0.01$ )、「服薬治療について」が76.4%、70.7%、83.2%( $p<0.01$ )であった。

周囲との関わりについて MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで HIV や性感染症について、困った時や不安な時に「家族に相談できる・できると思う」と回答した割合は35.1%、35.4%、21.9% ( $p<0.01$ )、「身近な友達に相談できる・できると思う」と回答した割合は31.7%、44.0%、49.1% ( $p<0.01$ )であった。また「相談できる場所を知っている」と回答した割合はそれぞれ50.8%、40.0%、65.9%( $p<0.01$ )であった。

性行動について MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで過去6ヶ月に「金銭を支払ってセックスをした」割合は47.8%、0.6%、16.5%( $p<0.01$ )、「金銭を受け取ってセックスをした」割合は0.3%、7.5%、4.2%( $p<0.01$ )であった。また性感染症既往歴の割合は MSM 以外男性、女性、MSM

それぞれで18.3%、27.2%、26.9%( $p<0.01$ )であった。

広報資材の認知割合について MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで「各行政のホームページ」が47.3%、45.5%、44.0%( $p=0.47$ )、「各行政の紙資材」が9.2%、9.8%、13.2%( $p=0.09$ )、「首都圏のCBO 活動による資材」が2.4%、2.7%、23.7% ( $p<0.01$ )、「HIV マップ」が5.7%、7.1%、20.1% ( $p<0.01$ )、「HIV 検査・相談マップ」が34.2%、41.8%、51.8%( $p<0.01$ )、「AC 広告」が5.0%、7.4%、11.4%( $p<0.01$ )であった(表2-3))。

MSM 群における CBO の活動や資材の認知によって認知なし群と認知あり群を比較し、有意な関連が見られたのは、以下のものであった(表3-3))。

まず、認知なし群と認知あり群でそれぞれ初回受検者割合は29.4%と13.9%( $p=0.01$ )であった。

周囲との関わりについて認知なし群と認知あり群それぞれで、HIV や性感染症について、困った時や不安な時に、「身近な友達に相談できる・できると思う」と回答した割合は45.1%と62.0% ( $p=0.01$ )であった。また「相談できる場所を知っている」と回答した割合はそれぞれ61.6%と79.7%( $p<0.01$ )であった。

広報資材の認知割合については、認知なし群と認知あり群それぞれで「各行政の紙資材」が10.6%と21.5%( $p=0.01$ )、「HIV マップ」が13.3%と41.8% ( $p<0.01$ )、「HIV 検査・相談マップ」が45.5%と72.2%( $p<0.01$ )、「AC 広告」が8.2%と21.5% ( $p<0.01$ )であった(表3-3))。

#### 千葉県内保健所

2013年1月から9月末の総受検件数は1,270件、このうち陽性判明数は1件(0.08%)、質問紙回収数は1,042件(82.0%)であった(表1-4))。MSM 割合は6.2%(男性中では9.7%)であった。

MSM 以外男性、女性、MSM でそれぞれの初回受検者割合は57.9%、63.7%、36.5%( $p<0.01$ )、居住地が千葉県内の割合は90.7%、89.0%、92.1% ( $p=0.61$ )、居住形態が1人暮らしの割合は22.4%、15.9%、30.2%( $p=0.01$ )、既婚者の割合は40.2%、

32.6%、7.9%( $p<0.01$ )、健康保険未加入の割合は2.7%、3.1%、4.8%( $p<0.01$ )であった(表2-4))。

MSM 以外男性、女性、MSM それぞれの HIV/STI や検査に関する知識の正答割合は「ウィンドウピリオドについて」が79.8%、81.0%、96.8%( $p=0.03$ )、「偽陽性の可能性について」が53.1%、50.4%、71.4%( $p=0.02$ )、「偽陽性の場合の再検査の必要性について」が60.8%、63.5%、76.2%( $p=0.17$ )、「重複感染について」が67.2%、65.7%、69.8%( $p=0.78$ )、「服薬治療について」が72.5%、67.7%、84.1%( $p=0.08$ )であった。

周囲との関わりについて MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで HIV や性感染症について、困った時や不安な時に「家族に相談できる・できると思う」と回答した割合は37.9%、42.2%、28.6%( $p=0.01$ )、「身近な友達に相談できる・できると思う」と回答した割合は33.1%、37.4%、57.1%( $p=0.01$ )であった。また「相談できる場所を知っている」と回答した割合はそれぞれ41.9%、32.9%、58.7%( $p<0.01$ )であった。

性行動について MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで過去6ヶ月に「金銭を支払ってセックスをした」割合は45.7%、0.6%、12.7%( $p<0.01$ )、「金銭を受け取ってセックスをした」割合は0.7%、9.1%、3.2%( $p<0.01$ )であった。また性感染症既往歴の割合は MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで16.5%、30.0%、34.9%( $p<0.01$ )であった。

広報資材の認知割合について MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで「各行政のホームページ」が44.8%、44.5%、47.6%( $p=0.90$ )、「各行政の紙資材」が4.6%、4.0%、1.6%( $p=0.51$ )、「首都圏のCBO活動による資材」が2.4%、3.1%、20.6%( $p<0.01$ )、「HIV マップ」が4.8%、2.3%、17.5%( $p<0.01$ )、「HIV 検査・相談マップ」が20.7%、28.9%、39.7%( $p<0.01$ )、「AC 広告」が5.4%、1.7%、6.3%( $p=0.01$ )であった(表2-4))。

MSM における CBO の活動や資材の認知によって認知なし群と認知あり群を比較したところ有意

となったのは以下のものであった(表3-4))。

認知なし群と認知あり群それぞれの HIV/STI や検査に関する知識の正答割合は、「ウィンドウピリオドについて」で100.0%と84.6%( $p<0.01$ )であった。また周囲との関わりについて、認知なし群と認知あり群それぞれで、「相談できる場所を知っている」と回答した割合はそれぞれ52.0%と84.6%( $p=0.03$ )であった。広報資材の認知割合については、認知なし群と認知あり群それぞれで「HIV マップ」は8.0%と53.8% ( $p<0.01$ )であった。

### (3) 考察

受検者中の陽性判明率は各都県および南新宿検査・相談室で0.08%(千葉県内)から0.9%(南新宿検査・相談室)の幅があった(表1)。この差は男性中陽性判明率でも同様の傾向を示していた。アンケート回収率も、47.1%(南新宿検査・相談室)から92.7%(神奈川県内)と幅があるが、アンケートの回収率が必ずしも陽性判明率と関連しているわけではなかった。

また各都県および南新宿検査・相談室の MSM 以外男性、女性、MSM の比較において(表2)、いずれの場合も、MSM 群の初回受検者割合は20%台から30%台を推移しており、他群の初回受検者割合が50%から60%台を推移する中で、低くなっており、MSM 群は他群に比べて検査を繰り返し受けていることが明らかとなった。年齢階級については、いずれの地域においても若年層には女性受検者の割合が高く、45歳以上の受検者割合は、MSM 以外男性の中で高かった。受検者の年齢層の特徴からも、MSM 以外男性、女性、MSM それぞれで受検の理由やきっかけは異なることが示唆された。

居住地について南新宿・検査相談室では、東京都以外の地域から検査を受検に訪れていた割合が高かった。その中でも特に MSM では東京都以外に居住する受検者割合は20%を超えており、南新宿検査・相談室は他地域の MSM にとっても受検しやすい場所であると言える。また、1人暮らしの割合はどの地域においても MSM で高かった。HIV

や性感染症について困った時や不安な時に家族に相談できると思っている割合はMSMで低かったが、身近な友達に相談できると思っている割合はMSMで高かった。これらの結果から、いずれの地域においてもMSMは自身の家族より身近な友達に相談しやすく、HIVやその他の性感染症について身近な友達が理解者となってくれるのではないかという期待を持っていると予想された。

また、広報資材の認知割合、HIV/STIや検査に関する知識の正答割合、相談場所の認知割合についてもMSMはどの地域においても、他群と比較して高かった。MSMの首都圏のCBOの活動や資材の認知割合は東京都内や南新宿検査・相談室ではそれぞれ30%を超えており、神奈川県内、千葉県内においても20%以上が認知しており、MSMは主にCBOの活動や資材を通じて、HIVやその他の性感染症についての情報を得ている可能性を示唆した。

MSMにおけるCBO活動や資材の認知なし群とあり群の比較では、千葉県内ではサンプル数が少なかつたため、検出力が低かつたが、いずれの地域においても、認知あり群は再受検者の割合が高かつた。また性感染症の既往歴を持つ割合も高かつたことから、感染リスクの高い行動をとっていたMSMにCBO活動や資材の認知がされている可能性が考えられる。HIVや性感染症について困った時や不安な時に身近な友人に相談できると思っている割合や相談場所の認知割合も認知あり群で高く、MSMにとって、CBOの活動や資材の認知が、HIVやその他の性感染症に対する予防などのネットワークを広げるきっかけになっている可能性がある。また、認知あり群ではその他の広報資材の認知割合も高い傾向にあり、相乗効果も期待されるが、今後、資材の認知のないものに対して、どのように予防に対する知識や情報を提供していくかを模索する必要がある。また、コンドーム使用状況については、認知なし群と認知あり群で有意な差が見られなかつたことから、提供された情報を、予防行動に結びつけるためには、更なる工夫が必要であることが示唆された。

2) コミュニティネットワークを用いたMSMを対象とする性の健康、HIV/AIDS感染予防行動に関する質問紙調査-GCQアンケート-

首都圏において横断的な質問紙調査を実施し、首都圏在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMにおけるHIVを含む性感染症に関連した状況や行動を年齢層別に把握することを目的とした。

#### (1) 研究方法

首都圏において当事者を中心としたaktaと協働し、インターネットを用いて質問紙調査を実施した。本調査は全国で同一の方法を用いて行われており、配布地域を明らかにするため各地域で固有のQRコードを設定している。質問の内容は基本属性、検査行動、性行動、性感染症既往歴、HIVに関する対話経験、周囲の感染者の有無、予防介入プログラムへの接触状況などとした。

調査の実施期間は首都圏では2013年7月5日から21日までの約1ヶ月間とした。実施期間中に配布したQRコードによって90人の回答を得た。そのうち重複回答を除く、首都圏在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMは88人であった(有効回答率97.8%)。また他地域のQRコードから回答した首都圏在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMが403人おり、合わせて491人を分析対象とした。

分析対象491人を2012年度と同様に、年齢層を24歳以下、25-29歳、30-34歳、35-39歳、40歳以上の5カテゴリーに分類し、各質問項目を年齢カテゴリー別に分析した。24歳以下は53人(10.8%)、25-29歳は107人(21.8%)、30-34歳121人(24.6%)、35-39歳は113人(23.0%)、40歳以上は97人(19.8%)であった。

データの集計および統計処理にはIBM SPSS Statistics 19を用いた。なお、本研究実施計画については名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得た(ID番号11027-2)。なお、調査の概要について各地域の概要と合わせて表4~7に示した。

### (3) 結果

基礎属性は表4に示した通りである。24歳以下は56.6%が家族と同居しているが、25歳以上は2/3が一人暮らしで家族以外との同居がおよそ20%であった。健康保険非保持者は34歳以下に1.9 - 2.5%あった。

利用する商業施設のうちゲイバー、ゲイナイト、ゲイショップなどの商業施設の利用割合は25歳以上から高くなり、24歳以下ではmixiなどのSNS(71.7%)、スマートフォンのゲイ向けアプリ(73.6%)が高い。

HIV検査受検行動、HIVやエイズに関する対話経験、性感染症の既往などについて表5に示した。HIV抗体検査の受検意図は、全体で86.2%、24歳以下でも77.4%と高いが、生涯での受検経験率は全体では72.9%、24歳以下で58.5%と若年層では意図があっても受検経験の低いことが示された。過去1年の受検経験は全体では35.0%で、年齢による差異は見られなかった。

友人・知人でのHIV陽性者の存在については、30歳以上では43%を超えるが、24歳以下は30%と低い。過去6か月間のHIVやエイズについての対話経験は年齢による差異は見られないが、友人・知人との対話は同54.2%であったのに対し、彼氏・恋人との対話は全体で32.6%と低かった。

これまでの性感染症既往は、毛じらみが最も高く35.0%、次いで梅毒、クラミジアが各12.2%、尖圭コンジローマ7.5%、淋病7.1%、HIV感染症5.9%であった。

過去6か月のアナルセックス経験率は(表6)、年齢により差がみられ、24歳以下から30-34歳層までがおよそ85%ほどであるのに比べ、35-39歳層が73.8%、40歳以上68.9%と低くなっていた。コンドーム使用率は全体では44.2%で、年齢層による差異はなかった。

過去6か月の薬物併用経験は年齢による差異は見られず(表7)、全体では併用経験ありが25.3%で、バイアグラのみの併用10.0%、他の併用経験15.3%であった。

金銭を払ったセックスの経験は全体では7.3%

であり年齢による差異はなかった。金銭を受けたセックスの経験は全体で3.9%と少ないが、若年層で高い(24歳以下は11.3%)。

NGOの啓発資材のうち、フリーペーパーaktaの認知は年齢による差異があり、読んだことがある割合は24歳以下が32.1%と最も低く、30-34歳以上では半数を超えていた。首都圏チームと連携する保健所等HIV検査機関を掲載したヤローページは、読んだことがあるが31.6%を占めた。コンドームを軸にした「safer sex キャンペーン2012」のロゴの認知割合は全体で23.2%、同時に配布したバッグ型のローション付コンドームの受け取り割合は全体で34.6%であった。いずれも年齢による差異はなかった。エイズ予防のための戦略研究で開発し継続して実施してきたHIVマップは46.0%が見たことがあると回答し、どの年齢層もほぼ同様であった。

### (4) 考察

首都圏では、連携する自治体・保健所等との意見交換会、そして検査情報の収集、広報資材の作成、さらにsafer sex キャンペーン2013の企画、資材制作、商業施設との調整、配布といったことを進めつつ、横断調査とパネル調査の時期を調整したが、横断調査の募集が十分でなかったためaktaからのリクルートで調査に参加した者が少なかった。GCQ横断調査を他の5地域でも実施したことで、それらの地域に出張や旅行していた首都圏在住のMSMが回答してくれたことで、分析を可能とする回答が得られた。しかし、これはakta周辺の回答者に偏らない利点となったのではとも考える。

HIV抗体検査については、受検意図を有する割合が86.2%、生涯の受検経験率が72.9%と比較的多くのMSMは受検していることが分かった。しかし、24歳以下では意図を有する者が77.4%に対し、生涯受検経験率は58.5%と、意図に比べて受検経験が低く、若年層でのHIV感染者増が著しいことを本研究班は明らかにしていることから、この層への介入が必要と思われる。

性行動については、コンドーム常用率が44.2%、年齢による差異はなく、また特定と不特定と相手が異なっても常用率は変わらず、予防介入にはさらに工夫を要すると考える。

一方で akta が発信する資材等は、読んだことがある、受け取ったことがあるなどは回答者の1/3から1/2を占め、これらの啓発活動を継続してきたことで、訴求してきたものとする。

#### D. 考察

##### 1. 首都圏における、ポスト戦略研究の介入体制の整備と運営

2006年から開始された戦略研究では、それまでにほとんどHIV関連の啓発が行われていなかった上野・浅草、新橋地域でMSMを対象に啓発を展開した。また、支援・相談体制として、地域で多様なニーズに応える支援を行っているNGO/NPOと連携し、ウェブ上でそうした情報提供をするプラットフォーム、ウェブサイト「HIVマップ」を整備した。そして、検査拡大のキャパシティが高い保健所、公的HIV検査機関でのMSMの受検機会を確保し、検査行動を促進させる啓発を行った。

戦略研究による成果をいかに継続・強化しながら、残された課題を整理し、より有効性のある啓発の企画・実施・評価を行うかが、ポスト戦略研究の介入体制整備の目標であった。そのため、本研究班では、ふれいす東京およびaktaとでMSM首都圏グループを形成し、厚生労働省が戦略研究の一部プログラムを事業化したことを活用するべく、今後の啓発普及の方向性を検討し、企画、実施した。

その結果、(1)首都圏のエイズ対策事業に関する意見交換会、(2)保健所等のHIV検査担当者を対象とした研修会、(3)MSMを対象とした、HIV検査受検行動促進のための啓発プロジェクト「ヤロープロジェクト」の普及と深化、(4)HIVのリアリティを伝えるLiving Togetherプロジェクトの新たなアプローチの試行、(5)HIV感染予防啓発のためのセーファーセックスキャンペーンの企画、実施、(6)支援・相談体制(ウェブサイト「HIVマッ

プ」)との連動、(7)コミュニティセンターaktaの継続的な運営による、ゲイコミュニティへの普及啓発の基盤維持と推進、(8)首都圏のMSM集団における啓発介入の評価調査の体制整備を継続して実施してきた。

MSM首都圏グループでは、首都圏の自治体・関係機関と地域におけるMSMのエイズ対策に関する意見交換会を設け、対策の方向性をNGO/NPOと行政が連携して検討し、検査普及や予防啓発に取り組むこととしている。またそうした普及啓発は、コミュニティセンターaktaを基点として、顔と顔をあわせた配布活動を初めとする、コミュニティベースの取り組みを通じた、コミュニティとの連携に支えられている。本研究班は、啓発普及と効果評価が連動する研究に取り組み、地域のMSMを対象とした有効なエイズ対策の確立に貢献したい。

##### 2. 首都圏におけるHIV/エイズの動向

厚生労働省エイズ発生動向調査(2012年報報告)によれば、地域ブロック別のエイズ患者報告数は、近畿地域、東海地域では増加していたが、東京の2010年の報告数は横ばいの傾向にあった。また、2011年のHIV/エイズ報告数は409件であり、前年と比べ、100件減少している。特にエイズ患者報告数は前年と比較して23件減少し、東京では過去10年最も少ない報告数といわれている。そしてこの時期は、首都圏で戦略研究によるMSMを対象とした介入研究が集中的に行われた時期と一致している。

こうした、エイズ発生動向調査の傾向や東京都のエイズ患者報告数の減少から、東京のMSMの間ではHIV抗体検査が促進され、エイズ患者発生を抑制した可能性が考えられる。また東京都の報告においてHIV感染者の報告数が大きく減少した点については、MSMの間で予防行動が進み、新たなHIV感染の広がりが押さえられている可能性が考えられるだろう。

しかし、2013年度の東京都の報告をみると、こうした傾向は一時的なものである可能性も考え

られる。東京都の報告によれば、2013年第1週から第39週(～9月30日)までにHIV/エイズの感染報告数は361件であり、これは前年同時期までの報告と比較して22件増加している。この傾向は2011年度と比較しても、徐々に増加していることがわかる。またそのうち、エイズ患者報告数についても前年よりも増加傾向にあり、さらに詳細な分析が必要である。

HIV感染者およびエイズ患者の発生を抑えるためには、今後もMSMを対象としたHIV抗体検査の促進と感染予防啓発について、地域の様々なセクターと連携しながら、ゲイコミュニティにおいて訴求性のあるアウトリーチを継続していくことが必要である。

### 3. 首都圏のMSMに向けた予防介入

本研究班では成人男性に占めるMSM割合を求め、それに基づき出生年代層別のHIV感染者発生動向を分析して報告した(平成24年度総括・分担研究報告書、191～230頁)。これによれば、東京では出生年代1970-1979年層、1960-1969年層ではHIV感染者発生率は減少しているが1980-1989年層(22-31歳代)は増加が著しい。GCQアンケートの結果からは、24歳以下の年齢層はHIV検査の意図があっても実際に受検した者は20%ほど低い割合であり、友人・知人でのHIV陽性者の存在についても30%と他の年齢層より低いことが示された。また予防行動では、コンドーム常用率が他の年齢層と共に40%台である。これらのことは、今後はMSMに向けた取り組みとして、若年層へのHIV感染シフトに対応した啓発介入を展開する必要があることを示唆している。コンドームを使う意図があっても、手の届くところにコンドームが無ければ使用率は半減している。その一方で意図がなかった場合でもそばにコンドームがあることで使用率が向上していることが本研究班のバー顧客調査で示されている。エイズ予防戦略研究では検査機会の拡大、早期検査と早期治療によるエイズ発症予防に向けて体制構築を進めてきた。このことに加え、今後は予防に向けた環境作りを取

り組むことが必要と考える。

### E. 結語

首都圏居住のMSMを対象とした、支援・相談体制の継続、HIV抗体検査の啓発普及の強化、さらにHIV感染予防プロジェクトの企画と実施を通じて、エイズ発症者の減少とHIV感染の拡大防止を目的とした取り組みを行った。

コミュニティセンターaktaを基点としたコミュニティベースの啓発活動、そしてふれいす東京とaktaの協働体制であるMSM首都圏グループによるHIV抗体検査普及啓発を行った。2011年3月に戦略研究が終了して3年目であり、本研究の3年目、研究班の最終年度である。2013年度は、戦略研究の構築した成果を継続、整理し、また残された課題に取り組み、また介入をするターゲットを明確にして取り組んだ年であった。

戦略研究を契機に構築したネットワーク、すなわち地域を越えたコミュニティにおける啓発活動を促進するキーパーソン、ゲイ向け商業施設・ゲイ向けメディア等とのネットワーク、MSMがあんしんして受検できるHIV抗体検査環境を整備・促進するための行政、保健所、公的HIV検査機関や医療機関とのネットワーク、そして地域の多様なニーズに応える支援を行うNGO/NPOとのネットワークの継続・強化し、以下のことに取り組んだ。(1)首都圏のエイズ対策事業に関する意見交換会、(2)保健所等のHIV検査担当者を対象とした研修会、(3)MSMを対象とした、HIV検査受検行動促進のための啓発プロジェクト「ヤロープロジェクト」の普及と開発、(4)HIVのリアリティを伝えるLiving Togetherプロジェクトの新たなアプローチの試行、(5)HIV感染予防啓発のためのセーフアセックスキャンペーンの企画、実施、(6)支援・相談体制(ウェブサイト「HIVマップ」)との連動、(7)コミュニティセンターaktaの継続的な運営による、ゲイコミュニティへの普及啓発の基盤維持、(8)首都圏のMSM集団における啓発介入の評価調査の体制整備と実施を行った。

こうした取り組みは、研究初年度より継続して

実施してきたものである。今年度の首都圏での介入は特に、若年 MSM 層での HIV 感染の拡大と、中高年 MSM 層でのエイズ発症ケースの増加傾向という HIV の疫学的動向への介入を意識しながら、プログラムの企画・運営を実施してきた。地域での介入方法については、コミュニティセンターaktaを基点に地域で HIV 対策に関わる NGO、研究者、行政、医療者等、そしてゲイコミュニティとの意見交換を元にして、プログラムの企画・運営を行ってきている。そして、本研究班の実施する質問紙調査等の調査によって、評価を行う体制を整備した。性行動等の横断調査からは、aktaが発信する資材等を「読んだ」、「受け取った」の回答が首都圏在住 MSM の 1/3 から 1/2 を占め、活動の継続による訴求の高さが示されている。その一方で若年層への HIV 感染のシフトが示されており、これらの世代を含めた新たな啓発介入が必要となっている。

#### F. 発表論文等

(○印は当研究班に関連した発表論文等)

(論文発表)

1. 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM (Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 日本公衆衛生学雑誌, 60(10), 639-650, 2013
2. H. Katano, Y. Yokomaku, H. Fukumoto, T. Kanno, T. Nakayama, A. Shingae, W. Sugiura, S. Ichikawa, and A. Yasuoka: Seroprevalence of Kaposi's Sarcoma-Associated Herpesvirus Among Men Who Have Sex With Men in Japan, Journal of Medical Virology, 85, 1046-1052, 2013
3. 福山由美, 市川誠一, 大林由美子, 杉浦互, 横幕能行: 愛知県におけるエイズ診療拠点病院初診患者の受診遅れと検査遅れに関連する要因, 日本エイズ学会誌, 15(2), 119-127, 2013
4. 堀希好, 金子典代, 市川誠一: 養護教諭が生徒から受ける同性への性的指向の相談の実態と対応に関する研究, 思春期学, 31(1), 167-174, 2013

(学会発表)

1. D. Dorjgotov, S. Oka, S. Ichikawa, E. Gombo, D. Jagdagsuren, S. Shiono, N. Galsanjants: Effect of the activities of non-governmental organizations (NGOs) on men who have sex with men (MSM) in Mongolia, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
2. N. Galsanjants, M. Dorjgotov, E. Gombo, D. Jagdagsuren, S. Shiono, N. Kaneko, S. Oka, S. Ichikawa: Development & implementation of the project "We are Living Under the Same Sky", the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
3. S. Shiono, S. Ichikawa, Y. Tada: Trends in the incidence of HIV and AIDS by decade of birth among MSM of Japanese nationality, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
4. 佐久間久弘, 荒木順子, 岩橋恒太, 柴田恵, 大島岳, 木南拓也, 阿部甚兵, 金子典代, 塩野徳史, 市川誠一: コミュニティセンターaktaを基点とするMSM向け性風俗店との連携を通じた予防行動促進キャンペーン, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本, 2013
5. 高野操, 中澤よう子, 金子典代, 塩野徳史, 生島嗣, 荒木順子, 岩橋恒太, 市川誠一, 岡慎一, 木村哲: 首都圏保健所における HIV 抗体検査受検者に対する結果通知率と陽性者の医療機関受診確認率 - エイズ予防のための戦略研究データより, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本, 2013
6. 金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊弘, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM 向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本, 2013
7. 牧園祐也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本

政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠  
一: MSM 向けエイズ対策としてのコミュニティ  
センターの意義と妥当性の検討, 第27回日本エ  
イズ学会学術集会・総会, 熊本, 2013

8. 岩橋恒太: 行政の統計から見えること～エイ  
ズサーベランス動向委員会報告 / 身体障害手帳  
取得状況, シンポジウム「MSM の感染予防とその  
課題」～多角的な視点から考える, 第27回日本エ  
イズ学会学術集会・総会, 熊本, 2013

## 図1.研究2013年度の目標と取り組み

感染増加傾向にあるMSMの若年層を対象に、コミュニティセンターaktaを拠点としたセクシャルヘルスプロモーションの実施。※発症でわかるケースの多い中高年層、薬物使用についても留意する。

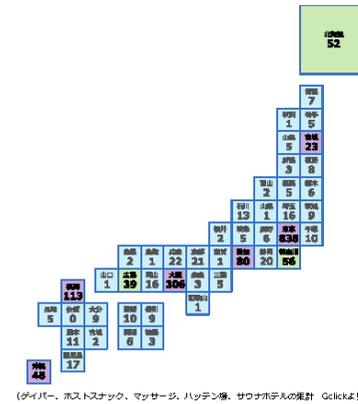
1. 啓発拠点コミュニティセンターの認知向上とその存続。  
また、そこを拠点とした資料開発とアウトリーチの将来的な継続。
2. 感染予防と検査促進のキャンペーンの実施（ハッテン場を中心にゲイコミュニティに周知）パネル調査と運動。
3. 首都圏地域（東京・千葉・神奈川・埼玉）における検査環境整備と検査を促進するための「ヤロープロジェクト」を継続
4. Living Togetherイベントを継続して実施することでHIV/AIDSと陽性者のリアリティを可視化し、予防行動と検査促進を普及する。
5. NPO法人aktaの連携による、MSMに配慮した検査と予防行動の促進。  
また多様なセクシャリティの認知・理解をはかる。

1

## 図2.首都圏の背景

●ゲイ向け商業施設分布

●MSM人口分布



	MSM人口 (4.8%)
北海道地方	118,174
東北地方	201,618
首都圏	676,246
関東地方(首都圏を除く)	285,108
中部地方	481,436
近畿地方	494,730
中国地方	163,944
四国地方	85,284
九州地方	282,854
沖縄地方	31,602

※人口：総務局統計局人口推計（平成24年度10月1日による）  
※MSM人口：市川雅夫調査の割合による

## 図3. 首都圏MSMのHIV感染対策の 企画、実施、評価体制整備に関する研究

### ①当事者参加型体制

NGOとの協働体制

当事者の参加により、同性愛者等に必要な情報や、訴求性の高い啓発普及を行う体制の整備

### ②受検行動、予防行動促進のための広報体制

NGOとの協働体制

支援・相談体制

MSM対応検査体制

受検意志を促進する啓発、安心して受検できる検査機関、検査前・後の不安や悩みが相談出来る機関の広報

受検行動や受検行動を支援する相談体制の整備

MSMが受けやすい保健所や公的検査機関、クリニックを確保し、受検期間を整備する

### ③啓発活動を評価する調査体制

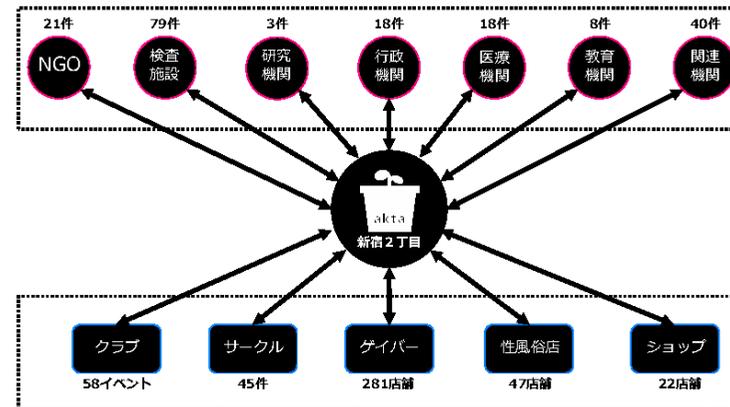
保健所等における受検件数、受検者動向調査

MSM集団における受検行動、予防行動調査

MSMの受検行動や啓発普及効果を把握するための調査体制

## 図4.啓発普及の基点（連携のハブ）

### HIV関連機関との連携



### ゲイコミュニティとの連携

図5.コミュニティセンターの機能



図6.相談

相談件数：120件（対面57件 電話57件 メール5件 手紙1件）

主な内容：HIV/STI 30%  
 セクシュアリティ13%  
 対人関係18%  
 生活6%  
 メンタルヘルス12%  
 近況報告他21%

件数の推移（1ヶ月平均）：2009年 3.2件  
 2010年 5.8件  
 2011年 10.6件  
 2012年 20.3件  
 2013年 15.0件

図7.従来のコミュニティペーパーakta (左)と改訂後(右)



図8.

DELIVERY HEALTH PROJECT (アウトリーチ)

バーへ	性風俗店へ	関連機関へ	首都圏全域へ
<p>新宿2丁目ゲイバー&amp;クラブ、毎週金曜日（第3週を除く） 165店舗へ配布。</p>	<p>東京23区内ゲイ向け性風俗店 &amp; ホルンショップ、毎月1回 47店舗へ配布。</p>	<p>資料 発送</p> <p>MSMを取巻く環境へのメール便・郵送でのアウトリーチ。                  行政機関 18件                  教育機関 8件                  医療機関 18件                  研究機関 3件                  保健所 46件                  HIV関連NGO 16件                  セクシャリティ関連NGO 5件                  自助グループ 2件                  メディア関連 9件                  その他 29件</p>	<p>MSM 首都圏 グループ</p> <p>渋谷・新橋・上野・浅草のゲイバーへの配布と、訪問による配達を好まない首都圏ゲイバーへの郵送によるアウトリーチ、85件へ発送。</p> <p>ヤローページへ検査情報が掲載された神奈川県、千葉県、埼玉県への保健所、33件。</p>
<p>定期的に顔と顔を合わせた配布を行い、街の空気を持ち帰る。</p>			
<p>合計154件</p>			<p>合計118店舗</p>

## 図9.Safer Sex Campaign

### プログラムの目的

対象：性風俗店舗

ゲイ向け性風俗店のオーナーやスタッフと信頼関係を構築する。



環境介入の契機を増やす。

アウトリーチ（啓発資料の設置）

プログラムの連携、意見交換

自主的な活動の発起を促す

対象：利用者

セーファーセックスをMSMの憧れる“スタイル”へと規範イメージをシフトさせる。



予防行動をとる。

(2012) 予防行動に関心を持つ

(2013) 予防に必要な知識を習得

(2014) 予防につながるコミュニケーションを身につける

9

## 図10.Safer Sex Campaign

2013年度：資材の開発・設置・配布  
具体的な行為を想定した3種類のポスターを中心に構成

イベント広報ポスター | 9/13-「予防」ポスター | 10/4-「検査・サポート」ポスター

協力：パティ

9/13- 展覧会  
Safer Sex Collection

ハッデン場に設置した  
キャンペーンコンドーム  
※ローション付き

8/30 トークショー「HIVとセーファーセックス」  
講師：行動疫学者 金子典代・パティ編集長 村上ひろし

バーに設置した  
キャンペーンコンドーム※2種

予防の情報をまとめた  
カードサイズのリーフレット

MSM向け東京都保健所マップ

感染リスクと具体的な予防の知識を発信

10

## 図11.Safer Sex Campaign 2013

### 広報



## 図12.Safer Sex Campaign 2013

### 広報

ゲイ向けイベントでのポスター展示

ゲイマガジンでの記事掲載

ゲイ向けイベントにブース出展

12

## 図13.Safer Sex Campaign

### 協力店舗のガイドライン

- 利用者がコンドームやローションをより使いやすいような工夫をしていたり、あるいは**今後取り組む意志がある。**
- 違法・脱法ドラッグ**を推奨、販売していない
- HIV陽性者を排除するような案内**が店内にない。
- キャンペーン終了後も、意見交換を行ったり、引き続きHIVや性感染症予防に関する**自主的な取り組み**を行う意志がある。

※ポスター等資材設置については、協力店をひろげる。

## 図14. ー 啓発イベントの開催 ー

### Living Together 計画



多様性を伴った視点から、「全ての人HIVとともに生きている」というリアリティーを共有するためのプロジェクト。ぶれいす東京とaktaが呼びかけ団体。

#### ●メッセージ

HIVを持つ人も、そうじゃない人も、  
ぼくたちはもう いっしょに生きている。  
We're already Living Together.



#### ●手法

HIV陽性者やその周囲の人々が書いた手記を集めて、  
第三者が朗読して、感想、体験を語ってもらうイベントをはじめ、  
その表現方法は多岐にわたる。



#### ●イベント開催の目的

HIV/AIDSや陽性者の存在を可視化し、リアリティーを伝え、  
予防行動の促進と誰もが暮らしやすい街や社会をつくる。

## 図15.Living Togetherイベントの実施

HIV/エイズと陽性者の存在のリアリティーを可視化し、コミュニティの中の新たなキーパーソンや人気チームと連携することで、若年層と未だ情報の届いていない層への情動的な予防啓発とHIV検査受検を促進する。

### akta tag tour (年4回)

- TOKYO RAINBOW WEEK2013 (2013/5/6@AISOTOPELOUNGE)87人
- 新宿2丁目大ゆかた祭り (2013/8/4@AISOTOPELOUNGE) 68人
- 平成元年会 (2013/11/4@AISOTOPELOUNGE) 57人
- 慶応義塾大学三田祭 (2013/11/22@慶応義塾大学三田祭)



※2012年からLT Loungeにかわり実施

## 図16.ヤロープロジェクト

### ◎戦略研究終了後、2011年4月からの取り組み

MSM首都圏グループ (NPO法人ぶれいす東京+NPO法人akta) & 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究班 (研究代表者 市川誠一)

#### MSM対象HIV検査普及啓発・広報

- HIV検査普及のための資材の企画・制作
- 首都圏地域のゲイ向け商業施設へのアウトリーチ

#### 効果評価 (厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究班 (研究代表者 市川誠一)との連携による調査・効果評価の実施。)

- MSMにおける啓発活動の広がりを把握するコミュニティでの質問紙調査
- MSMの受検促進に協力する保健所での受検者アンケート

#### 検査環境整備および相談支援整備

- エイズ対策事業に関する意見交換会の開催(年2回実施)
- 第4回意見交換会 (8/7 29人 国立感染症研究所・エイズ研究センター)
- 都県とMSM首都圏グループで実施するMSM対応検査従事者に向けた研修会の実施
- 通常検査・臨時検査検査情報収集
- 支援・相談情報提供 webサイトHIVマップ



## 図17.ヤロープロジェクト

### 保健師（HIV検査担当者）研修会

東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県
東京都福祉保健局 健康安全室感染症対策課 エイズ対策係	神奈川県保健福祉局 健康医療部健康危機管理課 感染対策グループ	千葉県保健福祉部 疾病対策課 感染対策室	埼玉県保健医療部 疾病対策課 感染対策担当
●日付：2013年6月21日 ●会場：都庁第一庁舎	●日付：2013年11月1日 ●会場：横浜市開港記念会館	●日付：2013年10月22日 ●会場：市川健康福祉センター	●日付：2013年10月4日 ●会場：埼玉県浦和合同庁舎
●参加人数：22人	●参加人数：19人	●参加人数：13人	●参加人数：13人

●プログラム（コーディネーター：生島 嗣/NPO法人ぶれいす東京）

- ① 前後都県のHIV/エイズ対策
- ② アイスブレイク
- ③ 露性者の手記リーディング(HIVのリアリティの共有)
- ④ セクシャル리티への理解と求められる配慮
- ⑤ MSMを対象にした研究成果・成果などから報告
- ⑥ 検査環境の取り組み事例の紹介と意見交換
- ⑦ セクシャル리티に配慮した 検疫対応
- ⑧ 相談・支援に役立つリソース紹介/akta見学



- アンケート（神奈川県）
- ・性的な話題への抵抗感 → 研修を通して、性的な話題への抵抗感を感ずる人が少なくなった。
  - ・身近にMSMがいるという意識 → 研修を通して、身近にMSMがいる意識が高まる傾向が見られた。
  - ・HIV露性者の相談も他の相談者同様に対応できるか → 研修を通して、対応する自信をつけた人が増えた。

MSMへの理解を深め、MSMが安心して検査を受けられる環境整備

## 図18.ヤロープロジェクト

### HIV検査普及のための冊子の企画・制作



- 地域情報
  - HIV検査施設
  - MSM向け商業施設
- 訪問記
  - HIV検査施設
  - MSM向け商業施設
- HIV/エイズの基礎・最新情報  
HIV/エイズ関連の支援情報
- セーフアセックス情報

ヤローページ=ゲイスポット情報+HIV検査施設情報（基礎情報含む）

保健所などでの臨時検査が集中する6月・12月にあわせて、MSM層に訴求力のある検査情報資料を作成し、HIV検査のイメージを一新する事で、ゲイライフの中に受検行動を位置づける。

## 図19.ヤロープロジェクト

### 啓発資料の施設掲載基準

#### ● 検査施設ガイドライン

1. 都県とMSM首都圏グループで実施するMSM対応検査従事者に向けた研修会への参加
2. エイズ対策・HIV検査普及に関する意見交換会への参加
3. 施設でのMSM首都圏グループの資料活用
4. 検査結果(陽性/陰性)の伝え方の確認

#### ● 掲載施設数(2013年11月発行分)

- 東京都	18施設→19
- 神奈川県	20施設→22
- 千葉県	8施設→8
- 埼玉県	10施設→14

※ウェブサイトHIVマップ「あんしん検査サーチ」もこれに準ずる。

#### ● 商業施設掲載ガイドライン

1. 『ヤローページ』等、HIVや性の健康に関する情報グッズの設置に協力する。
2. MSM首都圏グループが企画・編集する『ヤローページ』への、店舗情報の掲載を希望する。
3. 違法・脱法ドラッグの利用を禁止している。
4. 違法・脱法ドラッグの販売を行っていない。

#### ● 掲載店舗数(2013年11月発行分)

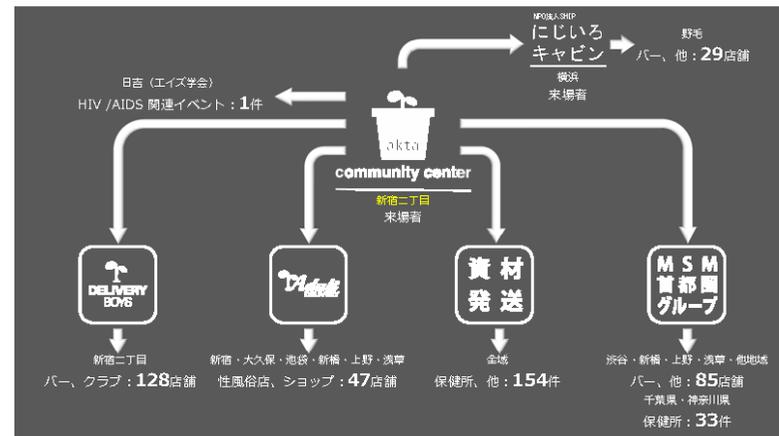
- 地域：新宿、上野、浅草、新橋、渋谷、横浜、千葉、さいたまなど
- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. バー     | 244店舗→252 |
| 2. 性風俗店   | 23店舗→22   |
| 3. ゲイショップ | 22店舗→20   |

2011年度は出版社から店舗情報を購入し掲載。

2012年度からコミュニティセンターのネットワークを活かし、店舗情報を直接収集・掲載。

## 図20.ヤロープロジェクト

### 首都圏全域へのアウトリーチ (ex.2012年度)



477ヶ所へのアウトリーチ、コミュニティセンターと477ヶ所からの発信。

図21.Webサイト「HIVマップ」

図22.HIVマップ 2013年度 アクセス分析



表1 HIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査(2013年1月-9月)の概要

1)東京都内(南新宿検査・相談室除く)

	2011年			2012年												2013年									2011年	2012年	2013年
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
参加施設数			18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	18	18	17
検査件数			800	550	599	719	632	612	772	659	632	651	643	617	733	598	593	587	599	593	759	638	660	738	800	7,819	5,765
(再掲)	男性		544	367	417	499	446	427	530	470	438	446	425	418	523	406	413	416	386	405	513	429	463	483	544	5,406	3,914
	女性		250	178	178	220	186	185	240	189	194	205	218	199	210	192	180	171	213	188	246	209	197	255	250	2,402	1,851
	その他		6	5	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	11	0
陽性判明数			3	4	2	1	1	2	3	1	7	4	1	3	2	3	2	2	3	1	4	1	1	5	3	31	22
(再掲)	男性		3	4	2	1	1	2	3	0	7	4	1	3	2	2	2	2	3	1	4	1	1	5	3	30	21
	女性		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性判明率			0.38%	0.73%	0.33%	0.14%	0.16%	0.33%	0.39%	0.15%	1.11%	0.61%	0.16%	0.49%	0.27%	0.50%	0.34%	0.34%	0.50%	0.17%	0.53%	0.16%	0.15%	0.68%	0.38%	0.40%	0.38%
男性受検者中の陽性判明率			0.55%	1.09%	0.48%	0.20%	0.22%	0.47%	0.57%	0.00%	1.60%	0.90%	0.24%	0.72%	0.38%	0.49%	0.48%	0.48%	0.78%	0.25%	0.78%	0.23%	0.22%	1.04%	0.55%	0.55%	0.54%
質問紙回収数			604	445	492	592	508	483	638	522	529	514	486	481	597	430	458	459	501	491	587	465	504	568	604	6,287	4,463
質問紙回収率			75.5%	80.9%	82.1%	82.3%	80.4%	78.9%	82.6%	79.2%	83.7%	79.0%	75.6%	78.0%	81.4%	71.9%	77.2%	78.2%	83.6%	82.8%	77.3%	72.9%	76.4%	77.0%	75.5%	80.4%	77.4%

2)南新宿検査・相談室

	2011年			2012年												2013年									2011年	2012年	2013年
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
参加施設数				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
検査件数				774	729	803	672	716	1,175	840	766	773	697	861	925	800	685	756	709	743	1,118	807	839	894	9,731	7,351	
(再掲)	男性			518	495	573	482	521	805	601	569	544	475	602	653	563	486	539	488	539	774	575	614	631	6,838	5,209	
	女性			256	234	230	190	195	370	239	197	229	222	259	272	237	199	217	221	204	344	232	225	263	2,893	2,142	
	その他			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
陽性判明数				9	6	9	7	6	11	7	8	8	9	6	6	7	4	7	10	9	6	10	8	5	92	66	
(再掲)	男性			9	5	9	7	6	11	7	8	8	9	6	6	7	4	7	10	9	6	10	8	5	91	66	
	女性			0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	その他			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
陽性判明率				1.16%	0.82%	1.12%	1.04%	0.84%	0.94%	0.83%	1.04%	1.03%	1.29%	0.70%	0.65%	0.88%	0.58%	0.93%	1.41%	1.21%	0.54%	1.24%	0.95%	0.56%	0.95%	0.90%	
男性受検者中の陽性判明率				1.74%	1.01%	1.57%	1.45%	1.15%	1.37%	1.16%	1.41%	1.47%	1.89%	1.00%	0.92%	1.24%	0.82%	1.30%	2.05%	1.67%	0.78%	1.74%	1.30%	0.79%	1.33%	1.27%	
質問紙回収数				107	347	391	316	381	539	383	359	358	368	427	486	429	244	379	342	339	490	417	377	447	4,462	3,464	
質問紙回収率				13.8%	47.6%	48.7%	47.0%	53.2%	45.9%	45.6%	46.9%	46.3%	52.8%	49.6%	52.5%	53.6%	35.6%	50.1%	48.2%	45.6%	43.8%	51.7%	44.9%	50.0%	45.9%	47.1%	

### 3) 神奈川県内

	2011年			2012年									2013年									2011年	2012年	2013年			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月				7月	8月	9月
参加施設数				7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7		8	8
検査件数				352	343	359	348	273	321	346	283	382	438	285	318	300	313	324	323	318	331	3,007	2,950				
(再掲)	男性				263	254	250	226	191	228	251	199	250	292	199	218	209	219	225	230	233	232	2,112	2,057			
	女性				89	89	109	122	82	93	95	84	131	146	86	100	91	94	99	93	85	99	894	893			
	その他				0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			
陽性判明数				3	0	1	0	0	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	1	10	12				
(再掲)	男性				3	0	1	0	0	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	3	1	9	12				
	女性				0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			
	その他				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	陽性判明率				0.85%	0.00%	0.28%	0.00%	0.00%	0.62%	0.58%	0.35%	0.26%	0.23%	0.70%	0.31%	0.33%	0.32%	0.31%	0.31%	0.94%	0.30%	0.33%	0.41%			
	男性受検者中の陽性判明率				1.14%	0.00%	0.40%	0.00%	0.00%	0.44%	0.80%	0.50%	0.40%	0.34%	1.01%	0.46%	0.48%	0.46%	0.44%	0.43%	1.29%	0.43%	0.43%	0.58%			
質問紙回収数				331	320	267	335	314	281	297	305	353	383	274	332	311	266	290	297	299	282	2,803	2,734				
質問紙回収率				94.0%	93.3%	74.4%	96.3%	115.0%	87.5%	85.8%	107.8%	92.4%	87.4%	96.1%	104.4%	103.7%	85.0%	89.5%	92.0%	94.0%	85.2%	93.2%	92.7%				

### 4) 千葉県内

	2011年			2012年									2013年									2011年	2012年	2013年
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月			
参加施設数				12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	12	11	11	11	11		12	12
検査件数				159	239	202	176	187	193	211	187	125	145	146	133	184	145	139	128	125	1,554	1,270		
(再掲)	男性				103	159	130	117	133	129	137	120	81	96	101	91	124	86	83	77	75	1,028	814	
	女性				56	80	72	59	54	64	74	67	44	49	45	42	60	59	56	48	49	526	452	
	その他				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	4	
陽性判明数				0	1	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	1		
(再掲)	男性				0	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	1	
	女性				0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	その他				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	陽性判明率				0.00%	0.42%	1.49%	0.00%	0.00%	1.04%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.54%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.39%	0.08%	
	男性受検者中の陽性判明率				0.00%	0.63%	2.31%	0.00%	0.00%	0.78%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.81%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.49%	0.12%	
質問紙回収数				119	202	173	155	153	174	181	164	104	111	123	107	154	116	118	111	98	1,321	1,042		
質問紙回収率				74.8%	84.5%	85.6%	88.1%	81.8%	90.2%	85.8%	87.7%	83.2%	76.6%	84.2%	80.5%	83.7%	80.0%	84.9%	86.7%	78.4%	85.0%	82.0%		

表2 HIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査：MSM以外男性・女性・MSMの各群における比較

1)東京都内（南新宿検査・相談室除く）

	MSM以外の男性 n=2291		女性 n=1399		MSM n=686		合計 n=4376		<sup>2</sup> 検定 によるp値
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？									
再受検	915	39.9%	516	36.9%	496	72.3%	1927	44.0%	< 0.01
初受検	1367	59.7%	874	62.5%	188	27.4%	2429	55.5%	
無回答	9	0.4%	9	0.6%	2	0.3%	20	0.5%	
年齢									
24歳以下	379	16.5%	459	32.8%	153	22.3%	991	22.6%	< 0.01
25-34歳	928	40.5%	618	44.2%	275	40.1%	1821	41.6%	
35-44歳	584	25.5%	227	16.2%	173	25.2%	984	22.5%	
45歳以上	340	14.8%	66	4.7%	78	11.4%	484	11.1%	
無回答	60	2.6%	29	2.1%	7	1.0%	96	2.2%	
居住地									
東京都	1872	81.7%	1212	86.6%	536	78.1%	3620	82.7%	< 0.01
それ以外の地域*	419	18.3%	187	13.4%	150	21.9%	756	17.3%	
居住形態									
はい(1人暮らし)	909	39.7%	500	35.7%	383	55.8%	1792	41.0%	< 0.01
いいえ	1369	59.8%	895	64.0%	303	44.2%	2567	58.7%	
無回答	13	0.6%	4	0.3%	0	0.0%	17	0.4%	
婚姻状況									
結婚している	762	33.3%	282	20.2%	55	8.0%	1099	25.1%	< 0.01
結婚していない	1516	66.2%	1108	79.2%	630	91.8%	3254	74.4%	
無回答	13	0.6%	9	0.6%	1	0.1%	23	0.5%	
健康保険加入状況									
国民健康保険/職場の健康保険	2032	88.7%	985	70.4%	581	84.7%	3598	82.2%	< 0.01
被扶養者の健康保険（家族・親族等の扶養）	178	7.8%	325	23.2%	70	10.2%	573	13.1%	
未加入*	81	3.5%	89	6.4%	35	5.1%	205	4.7%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*									
ウィンドウピリオドについて	2025	88.4%	1222	87.3%	638	93.0%	3885	88.8%	< 0.01
偽陽性の可能性について	1242	54.2%	639	45.7%	431	62.8%	2312	52.8%	< 0.01
偽陽性の場合、再検査の必要性がある	1596	69.7%	941	67.3%	531	77.4%	3068	70.1%	< 0.01
重複感染について	1665	72.7%	946	67.6%	545	79.4%	3156	72.1%	< 0.01
服薬治療について	1826	79.7%	1073	76.7%	585	85.3%	3484	79.6%	< 0.01
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思いますか？									
できない/できないと思う	1100	48.0%	631	45.1%	461	67.2%	2192	50.1%	< 0.01
わからない	388	16.9%	197	14.1%	74	10.8%	659	15.1%	
できる/できると思う	797	34.8%	568	40.6%	149	21.7%	1514	34.6%	
無回答	6	0.3%	3	0.2%	2	0.3%	11	0.3%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思いますか？									
できない/できないと思う	1222	53.3%	634	45.3%	276	40.2%	2132	48.7%	< 0.01
わからない	346	15.1%	163	11.7%	57	8.3%	566	12.9%	
できる/できると思う	717	31.3%	598	42.7%	353	51.5%	1668	38.1%	
無回答	6	0.3%	4	0.3%	0	0.0%	10	0.2%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？									
知らない	1219	53.2%	776	55.5%	229	33.4%	2224	50.8%	< 0.01
知っている	1059	46.2%	619	44.2%	457	66.6%	2135	48.8%	
無回答	13	0.6%	4	0.3%	0	0.0%	17	0.4%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？									
まったくなかった	644	28.1%	512	36.6%	115	16.8%	1271	29.0%	< 0.01
あまりなかった	841	36.7%	446	31.9%	266	38.8%	1553	35.5%	
時々あった	677	29.6%	361	25.8%	251	36.6%	1289	29.5%	
よくあった	120	5.2%	67	4.8%	54	7.9%	241	5.5%	
無回答	9	0.4%	13	0.9%	0	0.0%	22	0.5%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？									
ない*	1233	53.8%	1390	99.4%	581	84.7%	3204	73.2%	< 0.01
ある	1058	46.2%	9	0.6%	105	15.3%	1172	26.8%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？									
ない*	2274	99.3%	1268	90.6%	656	95.6%	4198	95.9%	< 0.01
ある	17	0.7%	131	9.4%	30	4.4%	178	4.1%	
あなたはこれまでの性感染症にかかったことはありますか？									
ない	1861	81.2%	997	71.3%	515	75.1%	3373	77.1%	< 0.01
ある	403	17.6%	387	27.7%	171	24.9%	961	22.0%	
無回答	27	1.2%	15	1.1%	0	0.0%	42	1.0%	
広報資料の認知（複数回答）									
各行政のホームページ	438	19.1%	265	18.9%	208	30.3%	911	20.8%	< 0.01
各行政の紙資料-ポスター-広報誌等	466	20.3%	284	20.3%	178	25.9%	928	21.2%	< 0.01
首都圏のCBOの活動や資料	151	6.6%	115	8.2%	213	31.0%	479	10.9%	< 0.01
HIVマップ	118	5.2%	78	5.6%	117	17.1%	313	7.2%	< 0.01
HIV検査・相談マップ	700	30.6%	528	37.7%	287	41.8%	1515	34.6%	< 0.01
AC広告(エイズ予防財団)	142	6.2%	127	9.1%	101	14.7%	370	8.5%	< 0.01

\* 集計のさいに無回答を含んでいる。

## 2)南新宿検査・相談室

	MSM以外の男性 n=1401		女性 n=1100		MSM n=931		合計 n=3432		<sup>2</sup> 検定 によるp値	
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？										
	再受検	608	43.4%	383	34.8%	693	74.4%	1684	49.1%	<b>&lt; 0.01</b>
	初受検	793	56.6%	714	64.9%	236	25.3%	1743	50.8%	
	無回答	0	0.0%	3	0.3%	2	0.2%	5	0.1%	
年齢										
	24歳以下	163	11.6%	305	27.7%	147	15.8%	615	17.9%	<b>&lt; 0.01</b>
	25-34歳	570	40.7%	573	52.1%	359	38.6%	1502	43.8%	
	35-44歳	400	28.6%	164	14.9%	276	29.6%	840	24.5%	
	45歳以上	253	18.1%	47	4.3%	135	14.5%	435	12.7%	
	無回答	15	1.1%	11	1.0%	14	1.5%	40	1.2%	
居住地										
	東京都	1043	74.4%	883	80.3%	712	76.5%	2638	76.9%	<b>&lt; 0.01</b>
	それ以外の地域*	358	25.6%	217	19.7%	219	23.5%	794	23.1%	
居住形態										
	はい(1人暮らし)	619	44.2%	530	48.2%	553	59.4%	1702	49.6%	<b>&lt; 0.01</b>
	いいえ	778	55.5%	566	51.5%	375	40.3%	1719	50.1%	
	無回答	4	0.3%	4	0.4%	3	0.3%	11	0.3%	
婚姻状況										
	結婚している	473	33.8%	135	12.3%	73	7.8%	681	19.8%	<b>&lt; 0.01</b>
	結婚していない	919	65.6%	960	87.3%	857	92.1%	2736	79.7%	
	無回答	9	0.6%	5	0.5%	1	0.1%	15	0.4%	
健康保険加入状況										
	国民健康保険/職場の健康保険	1285	91.7%	896	81.5%	827	88.8%	3008	87.6%	<b>&lt; 0.01</b>
	被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	86	6.1%	174	15.8%	76	8.2%	336	9.8%	
	未加入*	30	2.1%	30	2.7%	28	3.0%	88	2.6%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*										
	ウィンドウピリオドについて	1269	90.6%	966	87.8%	872	93.7%	3107	90.5%	<b>&lt; 0.01</b>
	偽陽性の可能性について	726	51.8%	474	43.1%	522	56.1%	1722	50.2%	
	偽陽性の場合、再検査の必要性がある	945	67.5%	737	67.0%	678	72.8%	2360	68.8%	<b>0.04</b>
	重複感染について	938	67.0%	666	60.5%	678	72.8%	2282	66.5%	
	服薬治療について	1225	87.4%	945	85.9%	840	90.2%	3010	87.7%	0.06
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できるとおもいますか？										
	できない/できないと思う	702	50.1%	557	50.6%	652	70.0%	1911	55.7%	<b>&lt; 0.01</b>
	わからない	220	15.7%	150	13.6%	94	10.1%	464	13.5%	
	できる/できると思う	475	33.9%	387	35.2%	184	19.8%	1046	30.5%	
	無回答	4	0.3%	6	0.5%	1	0.1%	11	0.3%	
	できない/できないと思う	827	59.0%	549	49.9%	388	41.7%	1764	51.4%	
	わからない	170	12.1%	103	9.4%	78	8.4%	351	10.2%	
	できる/できると思う	399	28.5%	443	40.3%	465	49.9%	1307	38.1%	
	無回答	5	0.4%	5	0.5%	0	0.0%	10	0.3%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？										
	知らない	592	42.3%	497	45.2%	319	34.3%	1408	41.0%	<b>&lt; 0.01</b>
	知っている	806	57.5%	598	54.4%	609	65.4%	2013	58.7%	
	無回答	3	0.2%	5	0.5%	3	0.3%	11	0.3%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？										
	まったくなかった	377	26.9%	379	34.5%	168	18.0%	924	26.9%	<b>&lt; 0.01</b>
	あまりなかった	500	35.7%	378	34.4%	344	36.9%	1222	35.6%	
	時々あった	435	31.0%	293	26.6%	360	38.7%	1088	31.7%	
	よくあった	84	6.0%	43	3.9%	58	6.2%	185	5.4%	
	無回答	5	0.4%	7	0.6%	1	0.1%	13	0.4%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？										
	ない*	713	50.9%	1095	99.5%	810	87.0%	2618	76.3%	<b>&lt; 0.01</b>
	ある	688	49.1%	5	0.5%	121	13.0%	814	23.7%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？										
	ない*	1395	99.6%	1010	91.8%	892	95.8%	3297	96.1%	<b>&lt; 0.01</b>
	ある	6	0.4%	90	8.2%	39	4.2%	135	3.9%	
あなたはこれまでにの性感染症にかかったことはありますか？										
	ない	1112	79.4%	813	73.9%	632	67.9%	2557	74.5%	<b>&lt; 0.01</b>
	ある	274	19.6%	280	25.5%	294	31.6%	848	24.7%	
	無回答	15	1.1%	7	0.6%	5	0.5%	27	0.8%	
広報資料の認知(複数回答)										
	各行政のホームページ	380	27.1%	240	21.8%	300	32.2%	920	26.8%	<b>&lt; 0.01</b>
	各行政の紙資料-ポスター広報誌等	263	18.8%	218	19.8%	196	21.1%	677	19.7%	
	首都圏のCBOの活動や資料	68	4.9%	57	5.2%	365	39.2%	490	14.3%	<b>&lt; 0.01</b>
	HIVマップ	72	5.1%	45	4.1%	147	15.8%	264	7.7%	
	HIV検査・相談マップ	429	30.6%	423	38.5%	310	33.3%	1162	33.9%	<b>&lt; 0.01</b>
	AC広告(エイズ予防財団)	159	11.3%	144	13.1%	176	18.9%	479	14.0%	

\*集計のさいに無回答を含んでいる。

### 3)神奈川県内

	MSM以外の男性 n=1511		女性 n=828		MSM n=334		合計 n=2673		<sup>2</sup> 検定 によるp値	
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?										
	再受検	680	45.0%	321	38.8%	246	73.7%	1247	46.7%	< 0.01
	初受検	827	54.7%	501	60.5%	86	25.7%	1414	52.9%	
	無回答	4	0.3%	6	0.7%	2	0.6%	12	0.4%	
年齢										
	24歳以下	204	13.5%	307	37.1%	70	21.0%	581	21.7%	< 0.01
	25-34歳	606	40.1%	365	44.1%	134	40.1%	1105	41.3%	
	35-44歳	411	27.2%	114	13.8%	91	27.2%	616	23.0%	
	45歳以上	269	17.8%	32	3.9%	36	10.8%	337	12.6%	
	無回答	21	1.4%	10	1.2%	3	0.9%	34	1.3%	
居住地										
	神奈川県	1279	84.6%	717	86.6%	280	83.8%	2276	85.1%	0.35
	それ以外の地域*	232	15.4%	111	13.4%	54	16.2%	397	14.9%	
居住形態										
	はい(1人暮らし)	528	34.9%	238	28.7%	147	44.0%	913	34.2%	< 0.01
	いいえ	974	64.5%	583	70.4%	187	56.0%	1744	65.2%	
	無回答	9	0.6%	7	0.8%	0	0.0%	16	0.6%	
婚姻状況										
	結婚している	556	36.8%	134	16.2%	35	10.5%	725	27.1%	< 0.01
	結婚していない	945	62.5%	690	83.3%	299	89.5%	1934	72.4%	
	無回答	10	0.7%	4	0.5%	0	0.0%	14	0.5%	
健康保険加入状況										
	国民健康保険/職場の健康保険	1371	90.7%	615	74.3%	284	85.0%	2270	84.9%	< 0.01
	被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	83	5.5%	169	20.4%	35	10.5%	287	10.7%	
	未加入*	57	3.8%	44	5.3%	15	4.5%	116	4.3%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*										
	ウィンドウビリオドについて	1274	84.3%	707	85.4%	300	89.8%	2281	85.3%	0.04
	偽陽性の可能性について	932	61.7%	466	56.3%	248	74.3%	1646	61.6%	
	偽陽性の場合、再検査の必要性がある	1101	72.9%	580	70.0%	265	79.3%	1946	72.8%	0.02
	重複感染について	1057	70.0%	533	64.4%	249	74.6%	1839	68.8%	
	服薬治療について	1154	76.4%	585	70.7%	278	83.2%	2017	75.5%	< 0.01
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思えますか?										
	できない/できないと思う	735	48.6%	415	50.1%	219	65.6%	1369	51.2%	< 0.01
	わからない	243	16.1%	119	14.4%	41	12.3%	403	15.1%	
	できる/できると思う	530	35.1%	293	35.4%	73	21.9%	896	33.5%	
	無回答	3	0.2%	1	0.1%	1	0.3%	5	0.2%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思えますか?										
	できない/できないと思う	830	54.9%	355	42.9%	131	39.2%	1316	49.2%	< 0.01
	わからない	199	13.2%	107	12.9%	38	11.4%	344	12.9%	
	できる/できると思う	479	31.7%	364	44.0%	164	49.1%	1007	37.7%	
	無回答	3	0.2%	2	0.2%	1	0.3%	6	0.2%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか?										
	知らない	740	49.0%	493	59.5%	113	33.8%	1346	50.4%	< 0.01
	知っている	767	50.8%	331	40.0%	220	65.9%	1318	49.3%	
	無回答	4	0.3%	4	0.5%	1	0.3%	9	0.3%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか?										
	まったくなかった	494	32.7%	344	41.5%	79	23.7%	917	34.3%	< 0.01
	あまりなかった	520	34.4%	251	30.3%	112	33.5%	883	33.0%	
	時々あった	408	27.0%	195	23.6%	118	35.3%	721	27.0%	
	よくあった	83	5.5%	32	3.9%	21	6.3%	136	5.1%	
	無回答	6	0.4%	6	0.7%	4	1.2%	16	0.6%	
過去6ヶ月間に相手にお金払ってセックスをしたことがありますか?										
	ない*	788	52.2%	823	99.4%	279	83.5%	1890	70.7%	< 0.01
	ある	723	47.8%	5	0.6%	55	16.5%	783	29.3%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?										
	ない*	1506	99.7%	766	92.5%	320	95.8%	2592	97.0%	< 0.01
	ある	5	0.3%	62	7.5%	14	4.2%	81	3.0%	
あなたはこれまでの性感染症にかかったことはありますか?										
	ない	1224	81.0%	596	72.0%	243	72.8%	2063	77.2%	< 0.01
	ある	276	18.3%	225	27.2%	90	26.9%	591	22.1%	
	無回答	11	0.7%	7	0.8%	1	0.3%	19	0.7%	
広報資料の認知(複数回答)										
	各行政のホームページ	715	47.3%	377	45.5%	147	44.0%	1239	46.4%	0.47
	各行政の紙資料-ポスター広報誌等	139	9.2%	81	9.8%	44	13.2%	264	9.9%	
	首都圏のCBOの活動や資料	37	2.4%	22	2.7%	79	23.7%	138	5.2%	< 0.01
	HIVマップ	86	5.7%	59	7.1%	67	20.1%	212	7.9%	
	HIV検査・相談マップ	517	34.2%	346	41.8%	173	51.8%	1036	38.8%	< 0.01
	AC広告(エイズ予防財団)	76	5.0%	61	7.4%	38	11.4%	175	6.5%	< 0.01

\*集計のさいに無回答を含んでいる。

#### 4) 千葉県内

	MSM以外の男性 n=589		女性 n=353		MSM n=63		合計 n=1005		<sup>2</sup> 検定 によるp値	
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？										
	再受検	245	41.6%	126	35.7%	40	63.5%	411	40.9%	<b>&lt; 0.01</b>
	初受検	341	57.9%	225	63.7%	23	36.5%	589	58.6%	
	無回答	3	0.5%	2	0.6%	0	0.0%	5	0.5%	
年齢										
	24歳以下	85	14.4%	100	28.3%	20	31.7%	205	20.4%	<b>&lt; 0.01</b>
	25-34歳	225	38.2%	163	46.2%	19	30.2%	407	40.5%	
	35-44歳	155	26.3%	56	15.9%	15	23.8%	226	22.5%	
	45歳以上	116	19.7%	31	8.8%	8	12.7%	155	15.4%	
	無回答	8	1.4%	3	0.8%	1	1.6%	12	1.2%	
居住地										
	千葉県	534	90.7%	314	89.0%	58	92.1%	906	90.1%	0.61
	それ以外の地域*	55	9.3%	39	11.0%	5	7.9%	99	9.9%	
居住形態										
	はい(1人暮らし)	132	22.4%	56	15.9%	19	30.2%	207	20.6%	<b>0.01</b>
	いいえ	456	77.4%	294	83.3%	43	68.3%	793	78.9%	
	無回答	1	0.2%	3	0.8%	1	1.6%	5	0.5%	
婚姻状況										
	結婚している	237	40.2%	115	32.6%	5	7.9%	357	35.5%	<b>&lt; 0.01</b>
	結婚していない	348	59.1%	238	67.4%	58	92.1%	644	64.1%	
	無回答	4	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.4%	
健康保険加入状況										
	国民健康保険/職場の健康保険	538	91.3%	247	70.0%	48	76.2%	833	82.9%	<b>&lt; 0.01</b>
	被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	35	5.9%	95	26.9%	12	19.0%	142	14.1%	
	未加入*	16	2.7%	11	3.1%	3	4.8%	30	3.0%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*										
	ウィンドウピリオドについて	470	79.8%	286	81.0%	61	96.8%	817	81.3%	<b>0.03</b>
	偽陽性の可能性について	313	53.1%	178	50.4%	45	71.4%	536	53.3%	<b>0.02</b>
	偽陽性の場合、再検査の必要性がある	358	60.8%	224	63.5%	48	76.2%	630	62.7%	0.17
	重複感染について	396	67.2%	232	65.7%	44	69.8%	672	66.9%	0.78
	服薬治療について	427	72.5%	239	67.7%	53	84.1%	719	71.5%	0.08
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思いますか？										
	できない/できないと思う	262	44.5%	143	40.5%	42	66.7%	447	44.5%	<b>0.01</b>
	わからない	100	17.0%	58	16.4%	3	4.8%	161	16.0%	
	できる/できると思う	223	37.9%	149	42.2%	18	28.6%	390	38.8%	
	無回答	4	0.7%	3	0.8%	0	0.0%	7	0.7%	
	できない/できないと思う	311	52.8%	164	46.5%	24	38.1%	499	49.7%	
	わからない	78	13.2%	55	15.6%	3	4.8%	136	13.5%	
	できる/できると思う	195	33.1%	132	37.4%	36	57.1%	363	36.1%	
	無回答	5	0.8%	2	0.6%	0	0.0%	7	0.7%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？										
	知らない	336	57.0%	234	66.3%	26	41.3%	596	59.3%	<b>&lt; 0.01</b>
	知っている	247	41.9%	116	32.9%	37	58.7%	400	39.8%	
	無回答	6	1.0%	3	0.8%	0	0.0%	9	0.9%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？										
	まったくなかった	195	33.1%	142	40.2%	7	11.1%	344	34.2%	<b>&lt; 0.01</b>
	あまりなかった	199	33.8%	108	30.6%	30	47.6%	337	33.5%	
	時々あった	154	26.1%	75	21.2%	22	34.9%	251	25.0%	
	よくあった	34	5.8%	21	5.9%	4	6.3%	59	5.9%	
	無回答	7	1.2%	7	2.0%	0	0.0%	14	1.4%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？										
	ない*	320	54.3%	351	99.4%	55	87.3%	726	72.2%	<b>&lt; 0.01</b>
	ある	269	45.7%	2	0.6%	8	12.7%	279	27.8%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？										
	ない*	585	99.3%	321	90.9%	61	96.8%	967	96.2%	<b>&lt; 0.01</b>
	ある	4	0.7%	32	9.1%	2	3.2%	38	3.8%	
あなたはこれまでにの性感染症にかかったことはありますか？										
	ない	487	82.7%	246	69.7%	40	63.5%	773	76.9%	<b>&lt; 0.01</b>
	ある	97	16.5%	106	30.0%	22	34.9%	225	22.4%	
	無回答	5	0.8%	1	0.3%	1	1.6%	7	0.7%	
広報資料の認知(複数回答)										
	各行政のホームページ	264	44.8%	157	44.5%	30	47.6%	451	44.9%	0.90
	各行政の紙資料-ポスター-広報誌等	27	4.6%	14	4.0%	1	1.6%	42	4.2%	0.51
	首都圏のCBOの活動や資料	14	2.4%	11	3.1%	13	20.6%	38	3.8%	<b>&lt; 0.01</b>
	HIVマップ	28	4.8%	8	2.3%	11	17.5%	47	4.7%	<b>&lt; 0.01</b>
	HIV検査・相談マップ	122	20.7%	102	28.9%	25	39.7%	249	24.8%	<b>&lt; 0.01</b>
	AC広告(エイズ予防財団)	32	5.4%	6	1.7%	4	6.3%	42	4.2%	<b>0.01</b>

\*集計のさいに無回答を含んでいる。

表3 HIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査：

MSM受検者におけるCBO(akta)の活動や資料の認知別分析

1)東京都内(南新宿検査・相談室除く)

	CBOの活動や資料の認知				合計 n=686		χ <sup>2</sup> 検定 によるp値
	なし n=473		あり n=213				
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？							
再受検	314	66.4%	182	85.4%	496	72.3%	<b>&lt; 0.01</b>
初受検	157	33.2%	31	14.6%	188	27.4%	
無回答	2	0.4%	0	0.0%	2	0.3%	
年齢							
24歳以下	114	24.1%	39	18.3%	153	22.3%	<b>0.04</b>
25-34歳	183	38.7%	92	43.2%	275	40.1%	
35-44歳	109	23.0%	64	30.0%	173	25.2%	
45歳以上	61	12.9%	17	8.0%	78	11.4%	
無回答	6	1.3%	1	0.5%	7	1.0%	
居住形態							
はい(1人暮らし)	258	54.5%	125	58.7%	383	55.8%	0.31
いいえ	215	45.5%	88	41.3%	303	44.2%	
無回答							
婚姻状況							
結婚している	46	9.7%	9	4.2%	55	8.0%	<b>0.04</b>
結婚していない	426	90.1%	204	95.8%	630	91.8%	
無回答	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	
健康保険加入状況							
国民健康保険/職場の健康保険	399	84.4%	182	85.4%	581	84.7%	0.54
被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	47	9.9%	23	10.8%	70	10.2%	
未加入*1	27	5.7%	8	3.8%	35	5.1%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*1							
ウィンドウピリオドについて	435	92.0%	203	95.3%	638	93.0%	0.28
偽陽性の可能性について	287	60.7%	144	67.6%	431	62.8%	0.22
偽陽性の場合、再検査の必要性がある	360	76.1%	171	80.3%	531	77.4%	0.45
重複感染について	366	77.4%	179	84.0%	545	79.4%	0.10
服薬治療について	400	84.6%	185	86.9%	585	85.3%	0.68
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思いますか？							
できない/できないと思う	317	67.0%	144	67.6%	461	67.2%	0.80
わからない	52	11.0%	22	10.3%	74	10.8%	
できる/できると思う	102	21.6%	47	22.1%	149	21.7%	
無回答	2	0.4%	0	0.0%	2	0.3%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思いますか？							
できない/できないと思う	212	44.8%	64	30.0%	276	40.2%	<b>&lt; 0.01</b>
わからない	46	9.7%	11	5.2%	57	8.3%	
できる/できると思う	215	45.5%	138	64.8%	353	51.5%	
無回答							
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？							
知らない	191	40.4%	38	17.8%	229	33.4%	<b>&lt; 0.01</b>
知っている	282	59.6%	175	82.2%	457	66.6%	
無回答							
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？							
まったくなかった/あまりなかった	261	55.2%	120	56.3%	381	55.5%	0.78
よくあった/時々あった	212	44.8%	93	43.7%	305	44.5%	
無回答							
あなたはこれまでに性感染症にかかったことはありますか？							
ない	367	77.6%	148	69.5%	515	75.1%	<b>0.02</b>
ある	106	22.4%	65	30.5%	171	24.9%	
無回答							
広報資料の認知(複数回答)							
各行政のホームページ	122	25.8%	86	40.4%	208	30.3%	<b>&lt; 0.01</b>
各行政の紙資料-ポスター・広報誌等	102	21.6%	76	35.7%	178	25.9%	
HIVマップ	51	10.8%	66	31.0%	117	17.1%	<b>&lt; 0.01</b>
HIV検査・相談マップ	176	37.2%	111	52.1%	287	41.8%	
AC広告(エイズ予防財団)	38	8.0%	63	29.6%	101	14.7%	<b>&lt; 0.01</b>
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>*2</sup>							
常用	96	31.2%	47	33.6%	143	31.9%	0.61
非常用	212	68.8%	93	66.4%	305	68.1%	
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>*2</sup>							
常用	116	38.5%	58	40.0%	174	39.0%	0.77
非常用	185	61.5%	87	60.0%	272	61.0%	
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>*2</sup>							
常用	43	37.4%	12	46.2%	55	39.0%	0.41
非常用	72	62.6%	14	53.8%	86	61.0%	
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>*2</sup>							
常用	36	37.9%	10	47.6%	46	39.7%	0.41
非常用	59	62.1%	11	52.4%	70	60.3%	

\*1 集計のさいに無回答を含んでいる。

\*2 過去6ヶ月間に膣性交または肛門性交を行ったと回答したもののみを分析対象としたため総数が異なる。

## 2) 南新宿検査・相談室

	CBOの活動や資材の認知				合計		χ <sup>2</sup> 検定 によるP値
	なし n=566		あり n=365		n=931		
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？							
再受検	385	68.0%	308	84.4%	693	74.4%	<b>&lt; 0.01</b>
初受検	179	31.6%	57	15.6%	236	25.3%	
無回答	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%	
年齢							
24歳以下	96	17.0%	51	14.0%	147	15.8%	0.10
25-34歳	209	36.9%	150	41.1%	359	38.6%	
35-44歳	159	28.1%	117	32.1%	276	29.6%	
45歳以上	91	16.1%	44	12.1%	135	14.5%	
無回答	11	1.9%	3	0.8%	14	1.5%	
居住形態							
はい(1人暮らし)	323	57.1%	230	63.0%	553	59.4%	0.20
いいえ	241	42.6%	134	36.7%	375	40.3%	
無回答	2	0.4%	1	0.3%	3	0.3%	
婚姻状況							
結婚している	61	10.8%	12	3.3%	73	7.8%	<b>&lt; 0.01</b>
結婚していない	504	89.0%	353	96.7%	857	92.1%	
無回答	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	
健康保険加入状況							
国民健康保険/職場の健康保険	510	90.1%	317	86.8%	827	88.8%	0.20
被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	43	7.6%	33	9.0%	76	8.2%	
未加入*1	13	2.3%	15	4.1%	28	3.0%	
HIV/STIや検査に関する知識正答 <sup>1</sup>							
ウィンドウピリオドについて	529	93.5%	343	94.0%	872	93.7%	0.38
偽陽性の可能性について	298	52.7%	224	61.4%	522	56.1%	
偽陽性の場合、再検査の必要性がある	402	71.0%	276	75.6%	678	72.8%	0.28
重複感染について	394	69.6%	284	77.8%	678	72.8%	
服薬治療について	501	88.5%	339	92.9%	840	90.2%	<b>0.04</b>
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思いますか？							
できない/できないと思う	388	68.6%	264	72.3%	652	70.0%	0.54
わからない	61	10.8%	33	9.0%	94	10.1%	
できる/できると思う	116	20.5%	68	18.6%	184	19.8%	
無回答	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思いますか？							
できない/できないと思う	258	45.6%	130	35.6%	388	41.7%	<b>&lt; 0.01</b>
わからない	52	9.2%	26	7.1%	78	8.4%	
できる/できると思う	256	45.2%	209	57.3%	465	49.9%	
無回答							
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？							
知らない	243	42.9%	76	20.8%	319	34.3%	<b>&lt; 0.01</b>
知っている	321	56.7%	288	78.9%	609	65.4%	
無回答	2	0.4%	1	0.3%	3	0.3%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？							
まったくなかった/あまりなかった	332	58.7%	180	49.3%	512	55.0%	<b>0.01</b>
よくあった/時々あった	233	41.2%	185	50.7%	418	44.9%	
無回答	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	
あなたはこれまでに性感染症にかかったことはありますか？							
ない	404	71.4%	228	62.5%	632	67.9%	<b>&lt; 0.01</b>
ある	157	27.7%	137	37.5%	294	31.6%	
無回答	5	0.9%	0	0.0%	5	0.5%	
広報資材の認知(複数回答)							
各行政のホームページ	180	31.8%	120	32.9%	300	32.2%	0.73
各行政の紙資材-ポスター広報誌等	84	14.8%	112	30.7%	196	21.1%	
HIVマップ	39	6.9%	108	29.6%	147	15.8%	<b>&lt; 0.01</b>
HIV検査・相談マップ	153	27.0%	157	43.0%	310	33.3%	
AC広告(エイズ予防財団)	70	12.4%	106	29.0%	176	18.9%	<b>&lt; 0.01</b>
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>2</sup>							
常用	136	37.3%	97	38.2%	233	37.6%	0.81
非常用	229	62.7%	157	61.8%	386	62.4%	
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>2</sup>							
常用	163	43.1%	121	43.2%	284	43.2%	0.98
非常用	215	56.9%	159	56.8%	374	56.8%	
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>2</sup>							
常用	54	52.9%	14	58.3%	68	54.0%	0.63
非常用	48	47.1%	10	41.7%	58	46.0%	
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>2</sup>							
常用	46	54.1%	14	56.0%	60	54.5%	0.87
非常用	39	45.9%	11	44.0%	50	45.5%	

\*1 集計のさいに無回答を含んでいる。

\*2 過去6ヶ月間に膣性交または肛門性交を行ったと回答したもののみを分析対象としたため総数が異なる。

### 3)神奈川県内

	CBOの活動や資料の認知				合計		χ <sup>2</sup> 検定 によるp値
	なし n=255		あり n=79		n=334		
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？							
再受検	178	69.8%	68	86.1%	246	73.7%	<b>0.01</b>
初受検	75	29.4%	11	13.9%	86	25.7%	
無回答	2	0.8%	0	0.0%	2	0.6%	
年齢							
24歳以下	54	21.2%	16	20.3%	70	21.0%	0.99
25-34歳	101	39.6%	33	41.8%	134	40.1%	
35-44歳	70	27.5%	21	26.6%	91	27.2%	
45歳以上	28	11.0%	8	10.1%	36	10.8%	
無回答	2	0.8%	1	1.3%	3	0.9%	
居住形態							
はい(1人暮らし)	108	42.4%	39	49.4%	147	44.0%	0.27
いいえ	147	57.6%	40	50.6%	187	56.0%	
無回答							
婚姻状況							
結婚している	31	12.2%	4	5.1%	35	10.5%	0.07
結婚していない	224	87.8%	75	94.9%	299	89.5%	
無回答							
健康保険加入状況							
国民健康保険/職場の健康保険	220	86.3%	64	81.0%	284	85.0%	0.29
被扶養者の健康保険（家族・親族等の扶養）	23	9.0%	12	15.2%	35	10.5%	
未加入*1	12	4.7%	3	3.8%	15	4.5%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*1							
ウィンドウピリオドについて	234	91.8%	66	83.5%	300	89.8%	0.07
偽陽性の可能性について	184	72.2%	64	81.0%	248	74.3%	
偽陽性の場合、再検査の必要性がある	196	76.9%	69	87.3%	265	79.3%	0.11
重複感染について	188	73.7%	61	77.2%	249	74.6%	
服薬治療について	207	81.2%	71	89.9%	278	83.2%	0.17
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思いますか？							
できない/できないと思う	168	65.9%	51	64.6%	219	65.6%	0.35
わからない	31	12.2%	10	12.7%	41	12.3%	
できる/できると思う	56	22.0%	17	21.5%	73	21.9%	
無回答	0	0.0%	1	1.3%	1	0.3%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思いますか？							
できない/できないと思う	109	42.7%	22	27.8%	131	39.2%	<b>0.01</b>
わからない	31	12.2%	7	8.9%	38	11.4%	
できる/できると思う	115	45.1%	49	62.0%	164	49.1%	
無回答	0	0.0%	1	1.3%	1	0.3%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？							
知らない	98	38.4%	15	19.0%	113	33.8%	<b>&lt; 0.01</b>
知っている	157	61.6%	63	79.7%	220	65.9%	
無回答	0	0.0%	1	1.3%	1	0.3%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？							
まったくなかった/あまりなかった	150	58.8%	41	51.9%	191	57.2%	0.55
よくあった/時々あった	102	40.0%	37	46.8%	139	41.6%	
無回答	3	1.2%	1	1.3%	4	1.2%	
あなたはこれまでに性感染症にかかったことはありますか？							
ない	188	73.7%	55	69.6%	243	72.8%	0.64
ある	66	25.9%	24	30.4%	90	26.9%	
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	0.3%	
広報資料の認知（複数回答）							
各行政のホームページ	112	43.9%	35	44.3%	147	44.0%	0.95
各行政の紙資料-ポスター-広報誌等	27	10.6%	17	21.5%	44	13.2%	
HIVマップ	34	13.3%	33	41.8%	67	20.1%	<b>&lt; 0.01</b>
HIV検査・相談マップ	116	45.5%	57	72.2%	173	51.8%	
AC広告(エイズ予防財団)	21	8.2%	17	21.5%	38	11.4%	<b>&lt; 0.01</b>
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	51	33.6%	14	22.6%	65	30.4%	0.11
非常用	101	66.4%	48	77.4%	149	69.6%	
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	50	35.2%	16	29.6%	66	33.7%	0.46
非常用	92	64.8%	38	70.4%	130	66.3%	
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	23	33.8%	0	0.0%	23	32.4%	0.22
非常用	45	66.2%	3	100.0%	48	67.6%	
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	26	40.0%	1	33.3%	27	39.7%	0.82
非常用	39	60.0%	2	66.7%	41	60.3%	

\*1 集計のさいに無回答を含んでいる。

\*2 過去6ヶ月間に膣性交または肛門性交を行ったと回答したもののみを分析対象としたため総数が異なる。

#### 4)千葉県内

	CBOの活動や資材の認知		合計 n=63	χ <sup>2</sup> 検定 によるp値
	なし n=50	あり n=13		
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？				
再受検	30 60.0%	10 76.9%	40 63.5%	0.26
初受検	20 40.0%	3 23.1%	23 36.5%	
無回答				
年齢				
24歳以下	16 32.0%	4 30.8%	20 31.7%	0.67
25-34歳	16 32.0%	3 23.1%	19 30.2%	
35-44歳	10 20.0%	5 38.5%	15 23.8%	
45歳以上	7 14.0%	1 7.7%	8 12.7%	
無回答	1 2.0%	0 0.0%	1 1.6%	
居住形態				
はい(1人暮らし)	15 30.0%	4 30.8%	19 30.2%	0.88
いいえ	34 68.0%	9 69.2%	43 68.3%	
無回答	1 2.0%	0 0.0%	1 1.6%	
婚姻状況				
結婚している	5 10.0%	0 0.0%	5 7.9%	0.23
結婚していない	45 90.0%	13 100.0%	58 92.1%	
無回答				
健康保険加入状況				
国民健康保険/職場の健康保険	40 80.0%	8 61.5%	48 76.2%	0.11
被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	7 14.0%	5 38.5%	12 19.0%	
未加入*1	3 6.0%	0 0.0%	3 4.8%	
HIV/STIや検査に関する知識正答 <sup>*1</sup>				
ウィンドウペリオドについて	50 100.0%	11 84.6%	61 96.8%	< 0.01
偽陽性の可能性について	34 68.0%	11 84.6%	45 71.4%	
偽陽性の場合、再検査の必要性がある	37 74.0%	11 84.6%	48 76.2%	
重複感染について	35 70.0%	9 69.2%	44 69.8%	
服薬治療について	41 82.0%	12 92.3%	53 84.1%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思いますか？				
できない/できないと思う	34 68.0%	8 61.5%	42 66.7%	0.82
わからない	2 4.0%	1 7.7%	3 4.8%	
できる/できると思う	14 28.0%	4 30.8%	18 28.6%	
無回答				
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思いますか？				
できない/できないと思う	22 44.0%	2 15.4%	24 38.1%	0.16
わからない	2 4.0%	1 7.7%	3 4.8%	
できる/できると思う	26 52.0%	10 76.9%	36 57.1%	
無回答				
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？				
知らない	24 48.0%	2 15.4%	26 41.3%	0.03
知っている	26 52.0%	11 84.6%	37 58.7%	
無回答				
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？				
まったくなかった/あまりなかった	31 62.0%	6 46.2%	37 58.7%	0.30
よくあった/時々あった	19 38.0%	7 53.8%	26 41.3%	
無回答				
あなたはこれまでに性感染症にかかったことはありますか？				
ない	34 68.0%	6 46.2%	40 63.5%	0.26
ある	15 30.0%	7 53.8%	22 34.9%	
無回答	1 2.0%	0 0.0%	1 1.6%	
広報資材の認知(複数回答)				
各行政のホームページ	23 46.0%	7 53.8%	30 47.6%	0.61
各行政の紙資材-ポスター・広報誌等	1 2.0%	0 0.0%	1 1.6%	
HIVマップ	4 8.0%	7 53.8%	11 17.5%	< 0.01
HIV検査・相談マップ	18 36.0%	7 53.8%	25 39.7%	
AC広告(エイズ予防財団)	3 6.0%	1 7.7%	4 6.3%	0.82
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>*2</sup>				
常用	8 25.0%	2 20.0%	10 23.8%	0.75
非常用	24 75.0%	8 80.0%	32 76.2%	
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>*2</sup>				
常用	8 25.8%	2 18.2%	10 23.8%	0.61
非常用	23 74.2%	9 81.8%	32 76.2%	
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>*2</sup>				
常用	5 33.3%	0 0.0%	5 33.3%	-
非常用	10 66.7%	0 0.0%	10 66.7%	
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況 <sup>*2</sup>				
常用	3 30.0%	0 0.0%	3 30.0%	-
非常用	7 70.0%	0 0.0%	7 70.0%	

\*1 集計のさいに無回答を含んでいる。

\*2 過去6ヶ月間に膣性交または肛門性交を行ったと回答したもののみを分析対象としたため総数が異なる。

表4 GCQ アンケート (2013): 年齢別の基礎属性

	年齢					合計 n=491	Pearson <sup>2</sup>
	24歳以下 n=53	25-29歳 n=107	30-34歳 n=121	35-39歳 n=113	40歳以上 n=97		
<b>性的指向</b>							
ゲイ(同性愛者)	43 81.1%	91 85.0%	109 90.1%	103 91.2%	91 93.8%	437 89.0%	0.15
バイ(両性愛者)	9 17.0%	10 9.3%	9 7.4%	7 6.2%	5 5.2%	40 8.1%	
その他	1 1.9%	6 5.6%	3 2.5%	3 2.7%	1 1.0%	14 2.9%	
<b>あなたは、現在だれかと一緒に暮らしていますか？</b>							
一人暮らし	16 30.2%	69 64.5%	86 71.1%	68 60.2%	63 64.9%	302 61.5%	0.00
家族と同居	30 56.6%	22 20.6%	11 9.1%	19 16.8%	15 15.5%	97 19.8%	
家族以外と同居	7 13.2%	16 15.0%	24 19.8%	26 23.0%	19 19.6%	92 18.7%	
<b>あなたは現在、結婚していますか？</b>							
結婚している	0 0%	2 1.9%	0 0%	3 2.7%	6 6.2%	11 2.2%	0.03
結婚していない	53 100.0%	105 98.1%	121 100.0%	110 97.3%	91 93.8%	480 97.8%	
<b>あなたは現在、健康保険を持っていますか？</b>							
国民健康保険	18 34.0%	34 31.8%	33 27.3%	36 31.9%	29 29.9%	150 30.5%	0.00
職場の健康保険	22 41.5%	67 62.6%	83 68.6%	75 66.4%	67 69.1%	314 64.0%	
被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	12 22.6%	4 3.7%	2 1.7%	2 1.8%	0 0%	20 4.1%	
持っていない	1 1.9%	2 1.9%	3 2.5%	0 0%	1 1.0%	7 1.4%	
<b>次の中でこれまでに利用したものはありますか？(あてはまるものすべて)</b>							
ゲイバー	37 69.8%	90 84.1%	116 95.9%	107 94.7%	94 96.9%	444 90.4%	0.00
ゲイナイト	28 52.8%	88 82.2%	106 87.6%	90 79.6%	71 73.2%	383 78.0%	0.00
ゲイショップ	24 45.3%	69 64.5%	99 81.8%	94 83.2%	77 79.4%	363 73.9%	0.00
PC出会い系サイト	25 47.2%	71 66.4%	91 75.2%	74 65.5%	62 63.9%	323 65.8%	0.01
携帯出会い系サイト	30 56.6%	73 68.2%	94 77.7%	85 75.2%	59 60.8%	341 69.5%	0.01
mixiなどのSNS	38 71.7%	74 69.2%	96 79.3%	83 73.5%	66 68.0%	357 72.7%	0.34
エロ系SNS	21 39.6%	51 47.7%	61 50.4%	53 46.9%	43 44.3%	229 46.6%	0.74
スマートフォンのゲイ向けアプリ	39 73.6%	87 81.3%	102 84.3%	81 71.7%	69 71.1%	378 77.0%	0.07
ゲイ向けサークル	12 22.6%	26 24.3%	44 36.4%	27 23.9%	28 28.9%	137 27.9%	0.15
ゲイ向け合コン	10 18.9%	32 29.9%	50 41.3%	31 27.4%	23 23.7%	146 29.7%	0.01
ゲイの乱パ	4 7.5%	16 15.0%	20 16.5%	22 19.5%	16 16.5%	78 15.9%	0.41
有料のハッテン場	24 45.3%	66 61.7%	88 72.7%	82 72.6%	67 69.1%	327 66.6%	0.00
野外のハッテン場	7 13.2%	27 25.2%	43 35.5%	45 39.8%	49 50.5%	171 34.8%	0.00
ハッテン場で有名な公共施設	19 35.8%	59 55.1%	76 62.8%	62 54.9%	51 52.6%	267 54.4%	0.03
いずれも利用なし	0 0%	1 0.9%	1 0.8%	2 1.8%	1 1.0%	5 1.0%	

表5 GCQ アンケート (2013): 年齢別の検査行動、HIVの身近さ、性感染症罹患、性行動

	年齢					合計 n=491	Pearson <sup>2</sup>
	24歳以下 n=53	25-29歳 n=107	30-34歳 n=121	35-39歳 n=113	40歳以上 n=97		
<b>これまでにHIV抗体検査を受けようと思ったことはありますか？</b>							
ある	41 77.4%	88 82.2%	105 86.8%	105 92.9%	84 86.6%	423 86.2%	0.06
ない	12 22.6%	19 17.8%	16 13.2%	8 7.1%	13 13.4%	68 13.8%	0.06
<b>これまでにHIV抗体検査を受けたことはありますか？</b>							
ある	31 58.5%	70 65.4%	90 74.4%	95 84.1%	72 74.2%	358 72.9%	0.00
ない	22 41.5%	37 34.6%	31 25.6%	18 15.9%	25 25.8%	133 27.1%	
<b>過去1年間にHIV抗体検査を受けたことはありますか？</b>							
ある	18 34.0%	38 35.5%	42 34.7%	48 42.5%	26 26.8%	172 35.0%	0.22
ない	35 66.0%	69 64.5%	79 65.3%	65 57.5%	71 73.2%	319 65.0%	
<b>過去1年の検査場所</b>							
保健所の通常検査	6 11.3%	19 17.8%	16 13.2%	23 20.4%	10 10.3%	74 15.1%	0.22
保健所の即日検査	7 13.2%	12 11.2%	15 12.4%	6 5.3%	5 5.2%	45 9.2%	0.14
保健所の夜間検査	1 1.9%	3 2.8%	0 .0%	3 2.7%	0 .0%	7 1.4%	0.21
医療センターなどの病院	1 1.9%	4 3.7%	13 10.7%	11 9.7%	7 7.2%	36 7.3%	0.12
クリニック・医院・診療所	7 13.2%	6 5.6%	6 5.0%	16 14.2%	6 6.2%	41 8.4%	0.04
郵送検査キット	0 .0%	0 .0%	1 .8%	4 3.5%	1 1.0%	6 1.2%	0.13
その他	2 3.8%	1 .9%	0 .0%	5 4.4%	2 2.1%	10 2.0%	0.13
<b>あなたの友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いますか？</b>							
いる	16 30.2%	32 29.9%	52 43.0%	58 51.3%	42 43.3%	200 40.7%	0.00
いると思う	8 15.1%	33 30.8%	27 22.3%	28 24.8%	22 22.7%	118 24.0%	
いないと思う	11 20.8%	12 11.2%	16 13.2%	13 11.5%	18 18.6%	70 14.3%	
いない	1 1.9%	3 2.8%	7 5.8%	3 2.7%	3 3.1%	17 3.5%	
わからない	17 32.1%	27 25.2%	19 15.7%	11 9.7%	12 12.4%	86 17.5%	
<b>過去6ヵ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？</b>							
ある	18 34.0%	40 37.4%	38 31.4%	40 35.4%	24 24.7%	160 32.6%	0.04
ない	11 20.8%	27 25.2%	49 40.5%	41 36.3%	32 33.0%	160 32.6%	
彼氏・恋人がいなかった	24 45.3%	40 37.4%	34 28.1%	32 28.3%	41 42.3%	171 34.8%	
<b>過去6ヵ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？</b>							
ある	33 62.3%	64 59.8%	64 52.9%	60 53.1%	45 46.4%	266 54.2%	0.26
ない	20 37.7%	43 40.2%	57 47.1%	53 46.9%	52 53.6%	225 45.8%	
<b>過去6ヵ月間に周囲の人とHIVやエイズについて話したことがありますか？</b>							
ある	34 64.2%	69 64.5%	68 56.2%	65 57.5%	50 51.5%	286 58.2%	0.34
ない	19 35.8%	38 35.5%	53 43.8%	48 42.5%	47 48.5%	205 41.8%	
<b>次の中で、これまでにかかったことがある性感染症はありますか？(あてはまるものすべて)</b>							
梅毒	1 1.9%	5 4.7%	14 11.6%	17 15.0%	23 23.7%	60 12.2%	0.00
A型肝炎	0 .0%	0 .0%	0 .0%	5 4.4%	5 5.2%	10 2.0%	0.01
C型肝炎	0 .0%	0 .0%	0 .0%	1 .9%	2 2.1%	3 6%	0.26
クラミジア	3 5.7%	11 10.3%	16 13.2%	14 12.4%	16 16.5%	60 12.2%	0.37
尖圭コンジローマ	4 7.5%	5 4.7%	5 4.1%	11 9.7%	12 12.4%	37 7.5%	0.12
淋病	1 1.9%	4 3.7%	11 9.1%	9 8.0%	10 10.3%	35 7.1%	0.17
HIV感染症	1 1.9%	4 3.7%	6 5.0%	7 6.2%	11 11.3%	29 5.9%	0.10
赤痢アメーバ	0 .0%	0 .0%	2 1.7%	3 2.7%	4 4.1%	9 1.8%	0.18
毛じらみ	8 15.1%	28 26.2%	53 43.8%	44 38.9%	39 40.2%	172 35.0%	0.00
性器ヘルペス	0 .0%	2 1.9%	3 2.5%	2 1.8%	6 6.2%	13 2.6%	0.15
その他	0 .0%	1 .9%	0 .0%	2 1.8%	1 1.0%	4 8%	0.60
いずれもなし	35 66.0%	57 53.3%	51 42.1%	45 39.8%	33 34.0%	221 45.0%	0.00
<b>これまでに男性とセックスをしたことがありますか？</b>							
ある	48 90.6%	102 95.3%	118 97.5%	111 98.2%	92 94.8%	471 95.9%	0.16
ない	5 9.4%	5 4.7%	3 2.5%	2 1.8%	5 5.2%	20 4.1%	
<b>これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？</b>							
ある	45 84.9%	99 92.5%	115 95.0%	107 94.7%	90 92.8%	456 92.9%	0.16
ない	8 15.1%	8 7.5%	6 5.0%	6 5.3%	7 7.2%	35 7.1%	

表6 GCQ アンケート (2013): 年齢別の性行動

	年齢					合計	Pearson <sup>2</sup>
	24歳以下	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40歳以上		
<b>過去6ヶ月間のアナルセックス経験</b>							
過去6ヶ月間あり	38 84.4%	84 84.8%	99 86.1%	79 73.8%	62 68.9%	362 79.4%	0.01
過去6ヶ月間なし	7 15.6%	15 15.2%	16 13.9%	28 26.2%	28 31.1%	94 20.6%	
<b>合計</b>	<b>45 100.0%</b>	<b>99 100.0%</b>	<b>115 100.0%</b>	<b>107 100.0%</b>	<b>90 100.0%</b>	<b>456 100.0%</b>	
<b>コンドーム使用状況</b>							
非常用	23 60.5%	47 56.0%	55 55.6%	46 58.2%	31 50.0%	202 55.8%	0.85
常用	15 39.5%	37 44.0%	44 44.4%	33 41.8%	31 50.0%	160 44.2%	
<b>合計</b>	<b>38 100.0%</b>	<b>84 100.0%</b>	<b>99 100.0%</b>	<b>79 100.0%</b>	<b>62 100.0%</b>	<b>362 100.0%</b>	
<b>彼氏や恋人などの相手とのコンドーム使用状況</b>							
非常用	11 68.8%	20 57.1%	27 61.4%	13 54.2%	8 40.0%	79 56.8%	0.45
常用	5 31.3%	15 42.9%	17 38.6%	11 45.8%	12 60.0%	60 43.2%	
<b>合計</b>	<b>16 100.0%</b>	<b>35 100.0%</b>	<b>44 100.0%</b>	<b>24 100.0%</b>	<b>20 100.0%</b>	<b>139 100.0%</b>	
<b>友達やセクフレなど恋人ではない特定の相手とのコンドーム使用状況</b>							
非常用	13 52.0%	25 55.6%	25 54.3%	22 53.7%	8 33.3%	93 51.4%	0.45
常用	12 48.0%	20 44.4%	21 45.7%	19 46.3%	16 66.7%	88 48.6%	
<b>合計</b>	<b>25 100.0%</b>	<b>45 100.0%</b>	<b>46 100.0%</b>	<b>41 100.0%</b>	<b>24 100.0%</b>	<b>181 100.0%</b>	
<b>その場限りの相手とのコンドーム使用状況</b>							
非常用	7 50.0%	18 51.4%	21 47.7%	27 65.9%	19 59.4%	92 55.4%	0.48
常用	7 50.0%	17 48.6%	23 52.3%	14 34.1%	13 40.6%	74 44.6%	
<b>合計</b>	<b>14 100.0%</b>	<b>35 100.0%</b>	<b>44 100.0%</b>	<b>41 100.0%</b>	<b>32 100.0%</b>	<b>166 100.0%</b>	

表7 GCQ アンケート (2013): 年齢別の性行動、薬物使用、金銭を介した性行動、資材認知

	年齢										合計 n=491	Pearson <sup>2</sup>	
	24歳以下 n=53		25-29歳 n=107		30-34歳 n=121		35-39歳 n=113		40歳以上 n=97				
<b>過去6ヶ月間に、口内射精をしたことがありますか？または、口内射精をされたことはありますか？</b>													
口内射精したことがある	12	22.6%	34	31.8%	33	27.3%	20	17.7%	21	21.6%	120	24.4%	0.23
口内射精されたことがある	7	13.2%	9	8.4%	10	8.3%	16	14.2%	6	6.2%	48	9.8%	
どちらもある	9	17.0%	13	12.1%	15	12.4%	24	21.2%	15	15.5%	76	15.5%	
どちらもない	25	47.2%	51	47.7%	63	52.1%	53	46.9%	55	56.7%	247	50.3%	
<b>過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験</b>													
いずれもなし	44	83.0%	83	77.6%	90	74.4%	80	70.8%	70	72.2%	367	74.7%	0.60
パイアグラのみ併用	1	1.9%	9	8.4%	13	10.7%	15	13.3%	11	11.3%	49	10.0%	
他の薬物併用経験あり	8	15.1%	15	14.0%	18	14.9%	18	15.9%	16	16.5%	75	15.3%	
<b>過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験（再掲）</b>													
いずれもなし	44	83.0%	83	77.6%	90	74.4%	80	70.8%	70	72.2%	367	74.7%	0.45
他の薬物併用経験あり	9	17.0%	24	22.4%	31	25.6%	33	29.2%	27	27.8%	124	25.3%	
<b>過去6か月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？</b>													
ある	4	7.5%	7	6.5%	10	8.3%	6	5.3%	9	9.3%	36	7.3%	0.83
ない	49	92.5%	100	93.5%	111	91.7%	107	94.7%	88	90.7%	455	92.7%	
<b>過去6か月間に相手にお金をもらってセックスをしたことがありますか？</b>													
ある	6	11.3%	5	4.7%	4	3.3%	2	1.8%	2	2.1%	19	3.9%	0.03
ない	47	88.7%	102	95.3%	117	96.7%	111	98.2%	95	97.9%	472	96.1%	
<b>新宿2丁目にあるコミュニティセンターakta(アクタ)に行ったことがありますか？</b>													
行ったことがある	16	30.2%	23	21.5%	37	30.6%	23	20.4%	15	15.5%	114	23.2%	0.07
知っているが行ったことない	12	22.6%	33	30.8%	43	35.5%	40	35.4%	41	42.3%	169	34.4%	
知らない	25	47.2%	51	47.7%	41	33.9%	50	44.2%	41	42.3%	208	42.4%	
<b>フリーペーパーakta monthly paperを読んだことがありますか？</b>													
読んだことがある	17	32.1%	46	43.0%	63	52.1%	62	54.9%	51	52.6%	239	48.7%	0.04
知っているが読んだことない	9	17.0%	13	12.1%	23	19.0%	14	12.4%	10	10.3%	69	14.1%	
知らない	27	50.9%	48	44.9%	35	28.9%	37	32.7%	36	37.1%	183	37.3%	
<b>あなたはヤローページを読んだことがありますか？</b>													
読んだことがある	15	28.3%	30	28.0%	41	33.9%	36	31.9%	33	34.0%	155	31.6%	0.70
知っているが読んだことない	10	18.9%	20	18.7%	28	23.1%	17	15.0%	21	21.6%	96	19.6%	
知らない	28	52.8%	57	53.3%	52	43.0%	60	53.1%	43	44.3%	240	48.9%	
<b>あなたは次のLiving Together計画のプログラムに参加したことはありますか？</b>													
Living Together ラウンジに行った	3	5.7%	8	7.5%	10	8.3%	4	3.5%	5	5.2%	30	6.1%	0.48
Living Togetherのど自慢に行った	2	3.8%	1	.9%	4	3.3%	3	2.7%	1	1.0%	11	2.2%	
akta tag tour(アクタ タッグツアー)に	2	3.8%	1	.9%	0	.0%	2	1.8%	1	1.0%	6	1.2%	
認知のみ行ったことない	7	13.2%	21	19.6%	32	26.4%	30	26.5%	20	20.6%	110	22.4%	
いずれも知らない	39	73.6%	76	71.0%	75	62.0%	74	65.5%	70	72.2%	334	68.0%	
<b>あなたは次のaktaが実施しているSaferSexCampaine2012のロゴを見たことがありますか？</b>													
見たことがある	13	24.5%	27	25.2%	30	24.8%	22	19.5%	22	22.7%	114	23.2%	0.85
見たことはない	40	75.5%	80	74.8%	91	75.2%	91	80.5%	75	77.3%	377	76.8%	
<b>これまでにあなたはSaferSexCampaine2012で配布しているローション付コンドーム(BAG型)をもらったことがありますか？</b>													
ある	16	30.2%	37	34.6%	41	33.9%	41	36.3%	35	36.1%	170	34.6%	0.95
もらっていない	37	69.8%	70	65.4%	80	66.1%	72	63.7%	62	63.9%	321	65.4%	
<b>あなたはHIVマップを見たことがありますか？</b>													
見た	27	50.9%	51	47.7%	54	44.6%	51	45.1%	43	44.3%	226	46.0%	0.93
見ていない	26	49.1%	56	52.3%	67	55.4%	62	54.9%	54	55.7%	265	54.0%	

